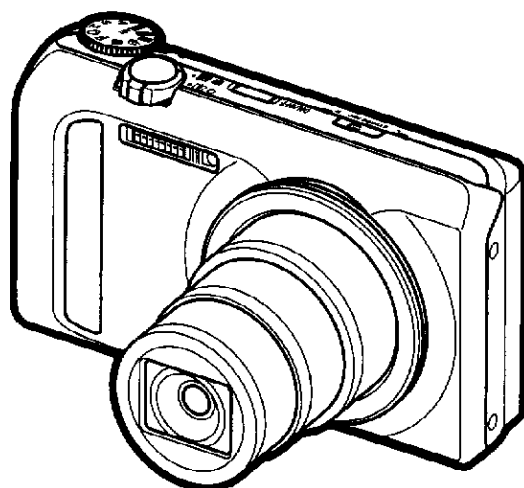


デジタルカメラ

EX-ZR100

取扱説明書
(保証書付き)

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://dc.casio.jp/>) またはカシオホームページ (<http://casio.jp/>) でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ

ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記サイトから登録手続きを行ってください。

<http://casio.jp/reg/dc/>

はじめにご覧ください
(基本的な操作)

⇒ 14ページ

静止画を撮影する(応用)	35
動画を撮影する	69
撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)	81
よりよい撮影のための設定	94
静止画や動画を再生する	111
再生時のその他の機能(再生機能)	126
ダイナミックフォト機能	141
プリント(印刷)する	144
パソコンを利用する	163
その他の設定について	179
液晶モニターの表示内容を切り替える	190
付録	192

K1169FCM1PKC

CASIO®

EXILIM エクシリム

目次

そろっていますか.....	2
あらかじめご承知ください.....	3
各部の名称.....	9
液晶モニターの表示内容.....	11

■ はじめにご覧ください (基本的な操作) 14

デジタルカメラでは こんなことができます.....	14
このカメラでできること.....	15
箱を開けたら、電池を充電する.....	16
■ 電池を充電する.....	16
■ 電池を入れる.....	18
最初に電源を入れたら 時計を合わせる.....	20
メモリーカードを準備する.....	21
■ 使用できるメモリーカード.....	21
■ メモリーカードを入れる.....	22
■ 新しいメモリーカードを フォーマット(初期化)する.....	23
電源を入れる／切る.....	24
カメラの正しい構えかた.....	25
静止画を撮影する.....	26
■ オート撮影モードを設定する.....	26
■ 撮影する.....	27
撮影した静止画を見る.....	30
撮影した静止画や動画を消去する.....	31
■ 1ファイルずつ消去する.....	31
■ 選択したファイルを消去する.....	31
■ すべてのファイルを消去する.....	32
静止画撮影時のご注意.....	33

■ オートフォーカスの制限事項.....	34
----------------------	----

■ 静止画を撮影する(応用) 35

撮影モードを設定する.....	35
操作パネルを使う.....	38
画像サイズを変更する(画像サイズ) ..	40
ISO感度を変える.....(ISO感度) ..	43
色合いを調整する(ホワイトバランス) ..	44
明るさを補正する(EVシフト) ..	46
フラッシュを使う...(フラッシュ) ..	47
操作パネル上の日付／時刻の 表示を変える.....	49
ズーム撮影する.....	50
■ ズームバーの見かた.....	51
■ 静止画の画質劣化を抑えてズーム 範囲を広げる.....(超解像ズーム) ..	54
何枚も連続して撮影する...(連写) ..	55
■ 高速連写／パスト連写で撮影する ..	55
■ メカニカルシャッターのみを使用 する高速連写で撮影する ..(F連写) ..	60
■ 連写時のご注意.....	62
デジタル処理で白とびや黒つぶれ のない写真を撮影する.....(HDR) ..	63
デジタル処理で芸術的な写真を 撮影する.....(HDRアート) ..	64
良い顔の画像だけ撮影する(いち押しショット) ..	65
パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ) ..	66

II 動画を撮影する 69

- 動画を撮影する 69
 - 音声について 71
- 高精細な動画を撮影する 73
- ハイスピード動画を撮影する 74
- 撮影開始前のシーンも
動画に記録する (パストムービー) .. 76
- YouTube用の
動画を撮影する (YouTube) .. 78
- 動画撮影中に静止画を
撮影する ... (スチルインムービー) .. 80

III 撮りたいシーンを選んで撮影する (ベストショット) 81

- ベストショットで撮影する 81
 - 自分好みの設定を登録する
..... (カスタム登録) ... 84
- デジタル処理で夜景をきれいに
撮影する
..... (HS夜景/HS夜景と人物) .. 85
- デジタル処理で手ブレ補正をする
..... (HS手ブレ補正) .. 86
- ズーム領域を拡大し
解像感を高めた写真を撮影する
..... (マルチ超解像ズーム) .. 87
- 撮りたい瞬間により近い画像を
撮影する (ぴったりショット) .. 88
- 連写でいろいろな被写体を撮る 90
- ハイスピード動画でいろいろな
被写体を撮る 92

II よりよい撮影のための設定 94

- メニュー操作を覚える 94
- 撮影設定について (撮影設定) ... 96
 - 静止画の画質劣化を抑えてズーム
範囲を広げる (超解像ズーム) ... 96
 - ピントの合わせ方を変える
..... (フォーカス方式) ... 96
 - セルフタイマーを使う
..... (セルフタイマー) ... 99
 - 手ブレや被写体ブレを軽減する
..... (手ブレ補正) .. 100
 - オートフォーカスの測定範囲を
変更する (AFエリア) .. 101
 - ピント合わせを補助するライト
..... (AF補助光) .. 102
 - 人物の顔にピントと明るさを
合わせて撮影する (顔検出) .. 102
 - 常にオートフォーカスを
動作させる (コンティニュアスAF) .. 104
 - 連写モードを変える (連写モード) .. 104
 - デジタルズームを設定する
..... (デジタルズーム) .. 104
 - 左右キーに機能を割り当てる
..... (左右キー設定) .. 105
 - 撮影時、液晶モニターに
基準線を表示する (グリッド表示) .. 106
 - 撮影直後の画像を表示する
..... (撮影レビュー) .. 106
 - 画面上のアイコンの意味を
確認する (アイコンガイド) .. 106
 - 各種設定を記憶させる
..... (モードメモリ) .. 107
- 画質設定について (画質設定) .. 108
 - 静止画の画質を設定する (画質) .. 108

- 動画の画質を設定する... (画質)...108
- 光の測りかたを変える... (測光方式)...109
- 画像の明るさを最適化する
..... (ライティング)...109
- フラッシュの明るさを変える
..... (フラッシュ光量)...110
- 全体の色調を変える
..... (カラーフィルター)...110
- 鮮鋭さを変える... (シャープネス)...110
- 色の鮮やかさを変える... (彩度)...110
- 明暗の差を変える... (コントラスト)...110

■ 静止画や動画を再生する 111

- 撮影した静止画を見る.....111
- 撮影した動画を見る.....111
- 撮影したパノラマ画像を見る.....112
- 連写した静止画を見る.....114
 - 連写画像の消去.....116
 - 連写画像をグループ解除する
..... (連写グループ解除)...118
 - 連写画像をコピーする... (コピー)...119
- 画像を拡大して表示する.....120
- 画像を一覧表示する.....120
- テレビで静止画や動画を見る.....121
 - ハイビジョンテレビで高画質で
見たいときは.....123

■ 再生時のその他の機能 (再生機能) 126

- 自動的にページ送りして楽しむ
..... (スライドショー)...126

- 好みのBGMをパソコンから
メモリーへコピーする.....127

- 動画から静止画を作成する
..... (モーションプリント) .129
- 動画をカットする(ムービーカット) .130
- 画像の明るさを最適化する
..... (ライティング) .131
- 画像の色味を変える
..... (ホワイトバランス) .132
- 画像の明るさを変える(明るさ編集) .133
- 印刷する画像を選ぶ(プリント設定) .133
- ファイルを消去できないように
する..... (プロテクト) .134
- 撮影画像の日時を修正する
..... (日時編集) .136
- 画像を回転させる..... (回転表示) .137
- 画像サイズを小さくする
..... (リサイズ) .138
- 静止画の一部を切り抜く
..... (トリミング) .138
- ファイルをコピーする.... (コピー) .139
- 連写画像をグループ解除する
..... (連写グループ解除) .139
- 連写画像を1枚の静止画に
まとめる... (連写マルチプリント) .140
- 連写画像を編集する
..... (連写フレーム編集) .140

■ ダイナミックフォト機能 141

- キャラクターを画像に貼り付ける
..... (ダイナミックフォト) .141

- ダイナミックフォト(合成ファイル)
を再生する 143
- 静止画に動くキャラクターを
貼り付けたダイナミックフォトを
動画に変換する。(ムービーへ変換) . 143

■ プリント(印刷)する 144

- 静止画のプリント方法..... 144
- カメラをPictBridge対応の
プリンターにつないでプリントする . 145
- プリントする画像や枚数を
指定しておく (DPOF) . 148

■ パソコンを利用する 153

- パソコンを使ってできること..... 153
- Windowsパソコンを利用する.... 154
 - 画像をパソコンに保存する／
パソコンで見る 156
 - 動画を再生する 161
 - YouTubeに動画を
アップロードする 162
 - パソコンに保存した画像を
カメラに戻す 164
 - カメラ、パソコン、携帯電話で
ダイナミックフォトを楽しむ 167
 - 画像を絵画風にする 167
 - 取扱説明書(PDFファイル)を読む . 168
 - ユーザー登録をする 169
- Macintoshを利用する 170
 - 画像をパソコンに保存する／
パソコンで見る 170
 - パソコンに自動的に
画像を保存する／画像を管理する . 173
 - 動画を再生する 174

- ユーザー登録をする 175
- ファイルとフォルダについて..... 176
- メモリー内のデータについて..... 177

■ その他の設定について 179

- 液晶モニターの明るさを変える
..... (液晶設定) . 179
- 画像縦横方向を感知し自動で
回転して表示する。(縦横自動回転) . 180
- カメラの音を設定する...(操作音) . 180
- 画像の連番のカウント方法を
切り替える..... (ファイルNo.) . 181
- 画像保存用のフォルダを
作成する..... (フォルダ作成) . 181
- 海外旅行先での
時刻を設定する。(ワールドタイム) . 182
- 日付や時刻を写し込む
..... (タイムスタンプ) . 183
- カメラの日時を
設定し直す..... (日時設定) . 183
- 日付の表示の並びを変える
..... (表示スタイル) . 184
- 表示言語を切り替える
..... (Language) . 184
- 電池の消耗を抑える...(スリープ) . 185
- 電池の消耗を抑える
..... (オートパワーオフ) . 185
- 【】、【】の動作を設定する
..... (REC/PLAY) . 186
- USBの通信方法を
切り替える..... (USB) . 186

画面の横縦比とビデオ出力の 方式を変更する..... (ビデオ出力)..187	
HDMI端子の出力方法を変える (HDMI出力)..187	
撮影した静止画を起動画面に 表示させる (起動画面)..188	
メモリーをフォーマットする (フォーマット)..189	
各種設定を購入直後の 設定に戻す (リセット)..189	

■ 液晶モニターの 表示内容を切り替える 190

表示される内容を選ぶ..... (情報)..190	
露出を確認する..... (ヒストグラム)..190	

■ 付録 192

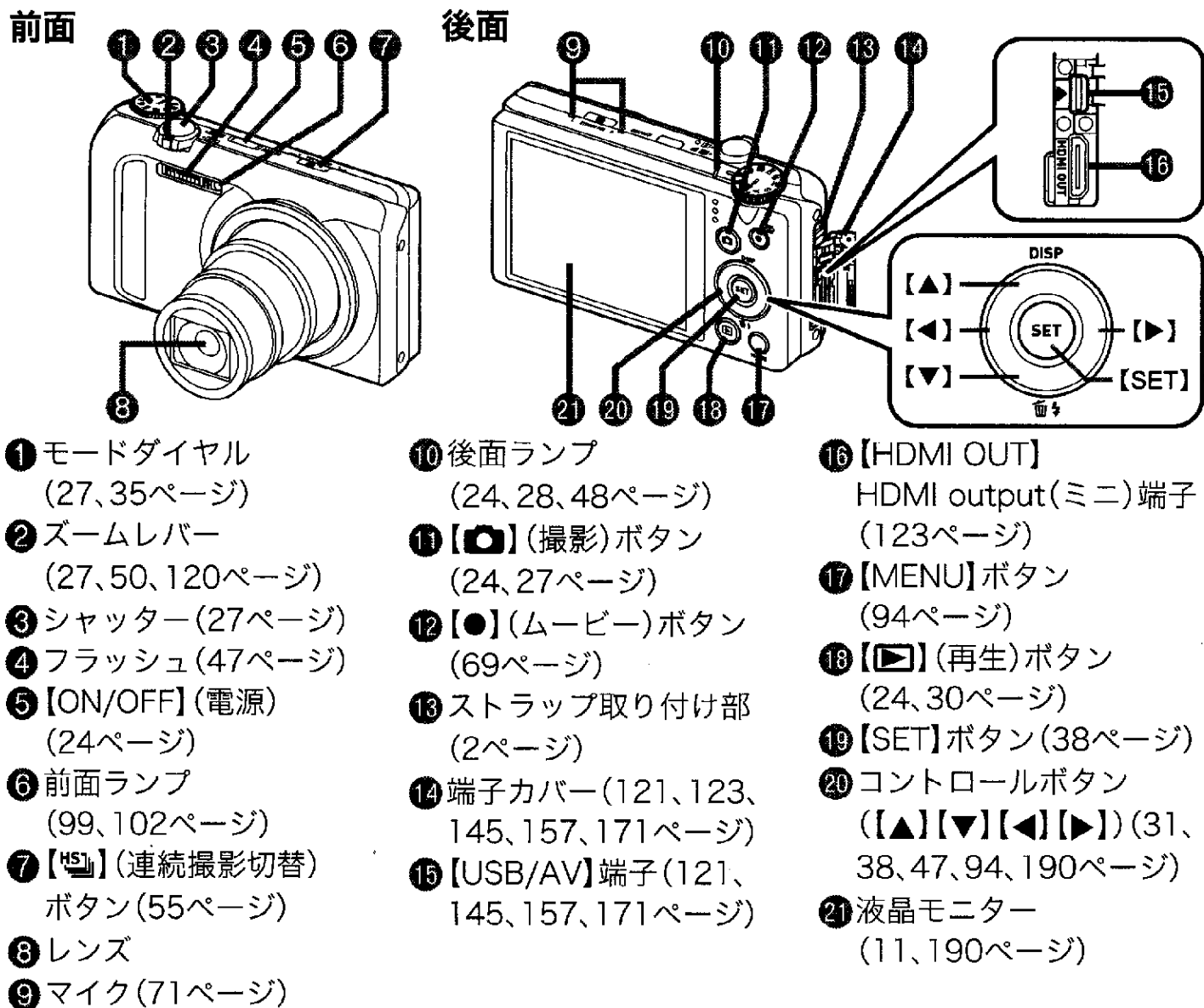
使用上のご注意.....192	
電源について.....197	
■ 充電について197	
■ 電池を交換する197	
■ 電池に関するご注意198	
■ 海外で使うときは199	
メモリーカードについて.....199	
■ メモリーカードを交換する199	
同梱ソフト使用時の 動作環境について.....201	
リセット操作でリセットされる内容..203	
故障かな？と思ったら.....206	
■ 現象と対処方法206	
■ 画面に表示されるメッセージ212	
撮影可能枚数／撮影可能時間215	

主な仕様／別売品219	
■ 別売品223	
索引.....224	
保証・アフターサービスについて..233	
アフターサービス窓口について...235	
修理サービスメニューについて...236	
保証規定237	
カシオ保証書238	

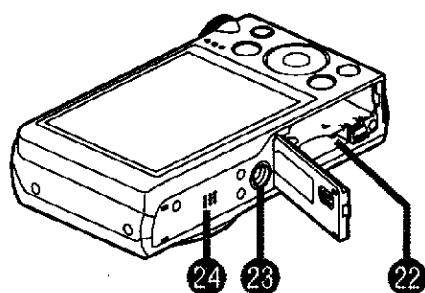
各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを()内に示します。

■ カメラ本体



底面



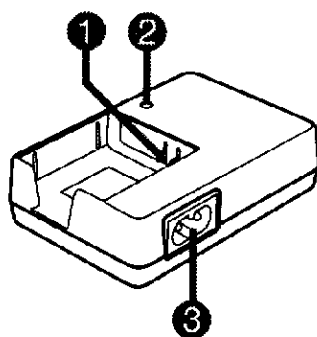
②② 電池／メモリーカード挿入部(18、22、197、199ページ)

②③ 三脚穴

三脚に取り付けるときに使用します。

②④ スピーカー

■ 充電器



① ④、⑤、⑥ 接点

② ⑦ [CHARGE] ランプ

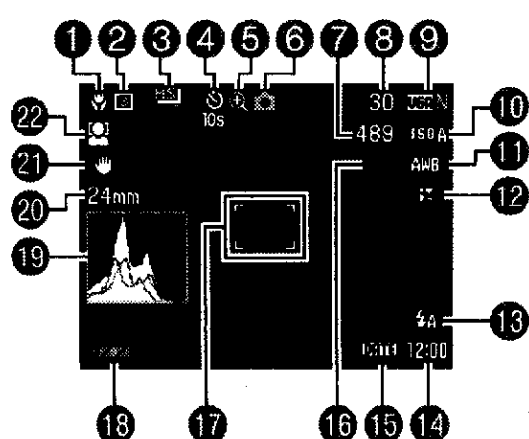
③ ⑧ ACジャック

液晶モニターの表示内容

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影時



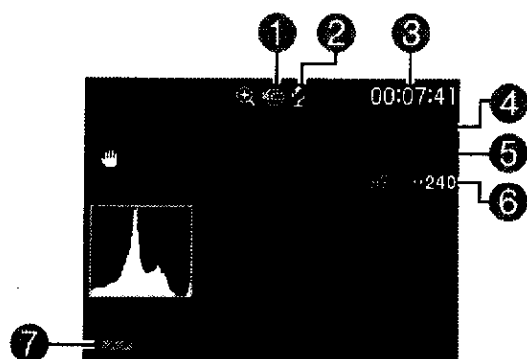
- ① フォーカス方式 (96ページ)
- ② 測光方式 (109ページ)
- ③ 連写モード (55ページ)
- ④ セルフタイマー (99ページ)
- ⑤ 画像劣化表示／超解像ズーム (51ページ)
- ⑥ 撮影モード (26ページ)

- ⑦ 静止画撮影可能枚数 (58、215ページ)
- ⑧ 連続撮影可能枚数 (58ページ)
- ⑨ 静止画の画像サイズ／画質 (40、108ページ)
- ⑩ ISO感度 (43ページ)
- ⑪ ホワイトバランス (44ページ)
- ⑫ 露出補正 (46ページ)
- ⑬ フラッシュ (47ページ)
- ⑭ 日付／時刻 (20、183ページ)
- ⑮ タイムスタンプ (183ページ)
- ⑯ 動画画質 (FHD/STD動画) (69、73ページ)／
撮影速度 (ハイスピード動画) (74ページ)
- ⑰ フォーカスフレーム (28、101ページ)
- ⑱ 電池残量表示 (19ページ)
- ⑲ ヒストグラム (190ページ)
- ⑳ 焦点距離 (35mmフィルム換算) (50ページ)
- ㉑ 手ブレ補正 (100ページ)
- ㉒ 顔検出 (102ページ)

参考

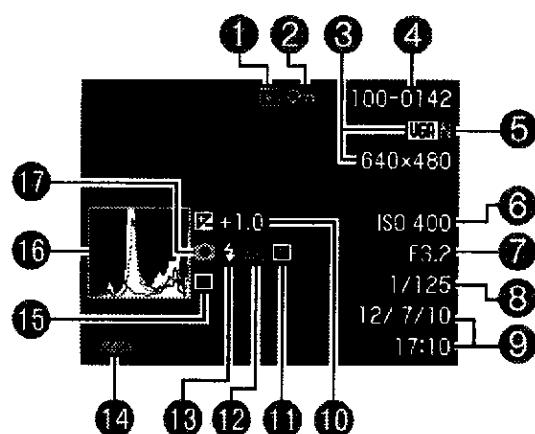
- 画面上に半透明のグレーの枠が表示されますが、これは動画撮影時の撮影範囲です。枠の内側の範囲が動画で撮影されます。
- 絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE(自動露出)が適正でない場合、シャッターを半押ししたとき、オレンジ色で表示されます。

■ 動画撮影時



- ① 動画アイコン(70ページ)
- ② 録音オフ(74ページ)
- ③ 動画の残り時間(70ページ)
- ④ 動画の撮影時間(70ページ)
- ⑤ 動画撮影中(70ページ)
- ⑥ 動画画質(FHD/STD動画)(69、73ページ) / 撮影速度(ハイスピード動画)(74ページ)
- ⑦ 電池残量表示(19ページ)

■ 静止画再生時



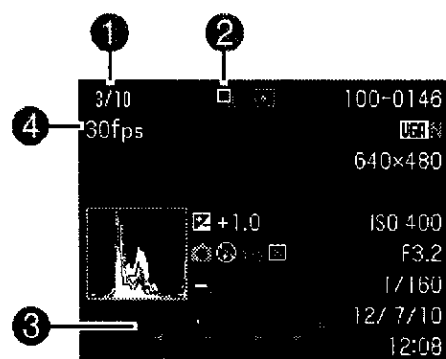
- ① ファイル形態
- ② プロテクト表示(134ページ)
- ③ 静止画の画像サイズ(40ページ)
- ④ フォルダ名/ファイル名(176ページ)
- ⑤ 静止画の画質(108ページ)
- ⑥ ISO感度(43ページ)
- ⑦ 絞り値
- ⑧ シャッター速度
- ⑨ 日付/時刻(183ページ)
- ⑩ 露出補正(46ページ)
- ⑪ 測光方式(109ページ)
- ⑫ ホワイトバランス(132ページ)
- ⑬ フラッシュ(47ページ)
- ⑭ 電池残量表示(19ページ)
- ⑮ 連写モード(55ページ)
- ⑯ ヒストグラム(190ページ)
- ⑰ 撮影モード(26ページ)

■ 動画再生時



- ① 音声なし
- ② ファイル形態
- ③ プロテクト表示(134ページ)
- ④ フォルダ名／ファイル名(176ページ)
- ⑤ 動画の撮影時間(111ページ)
- ⑥ 動画の撮影モード／画質／スピード
(69、73、74ページ)
- ⑦ YouTube(78ページ)
- ⑧ 日付／時刻(183ページ)
- ⑨ 電池残量表示(19ページ)

■ 連写画像再生時

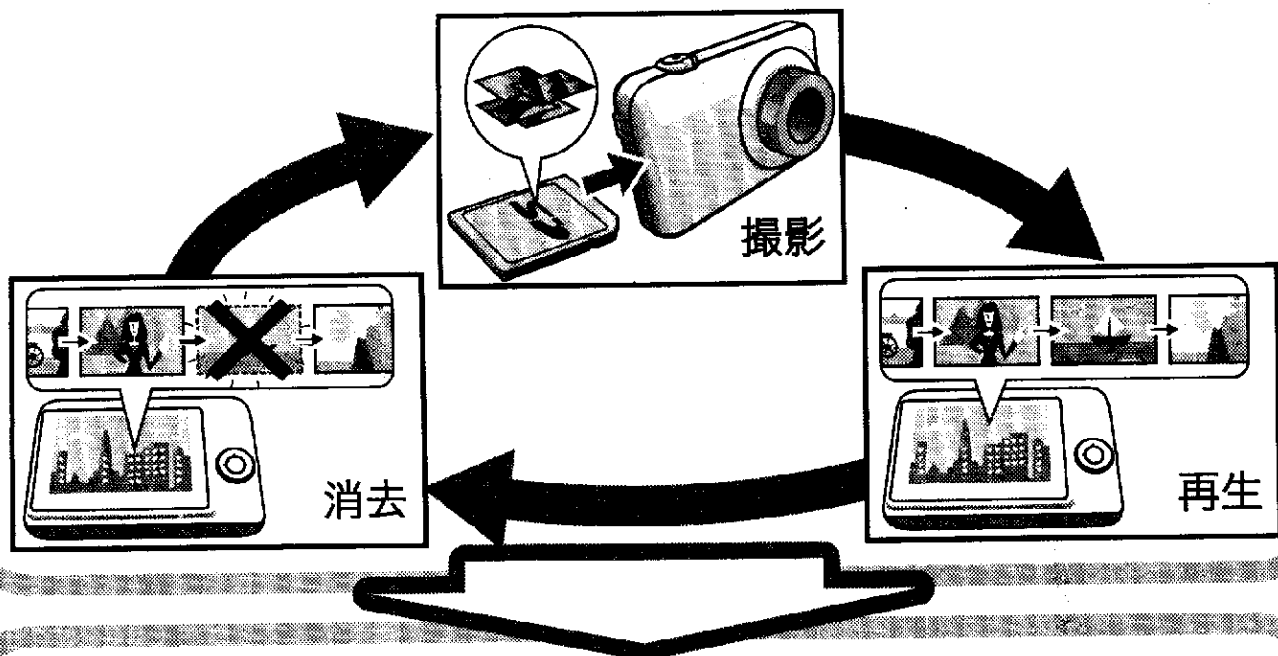


- ① 表示中の画像番号／グループ内の画像総数
(114ページ)
- ② 連写グループアイコン(114ページ)
- ③ 再生ガイド(114ページ)
- ④ 連写速度(114ページ)

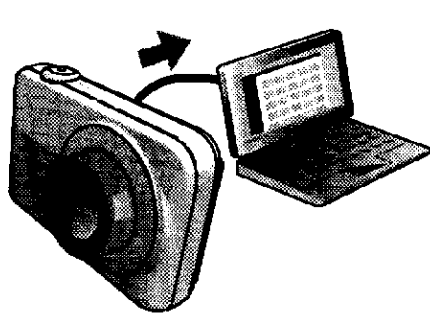
はじめにご覧ください(基本的な操作)

デジタルカメラではこんなことができます

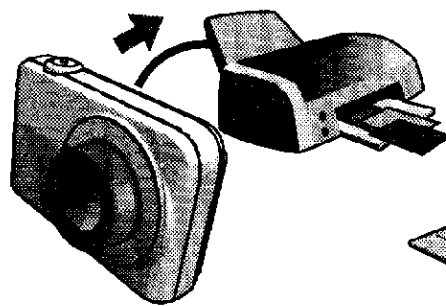
デジタルカメラではメモリーカードを使用して繰り返し撮影ができます。



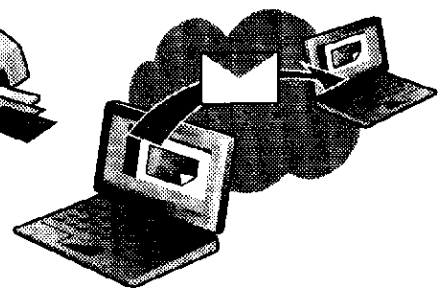
撮影した写真は、さまざまな用途に活用できます。



パソコンに保存できます



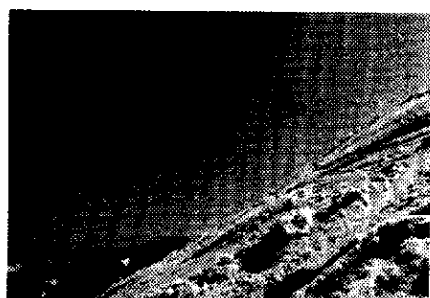
印刷できます



電子メールに写真が
添付できます

このカメラでできること

このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な3つの機能を紹介します。



高速連写／パスト連写

高画質で最高1秒間40コマ(1回の撮影で連続最大30枚まで)の速さで連続撮影ができます。さらに数秒前の撮影も可能です。決定的瞬間を撮り逃しません。

詳しくはこちら **55** ページ



ハイスピード動画

最高1秒間に1000コマ(1000fps)の動画が撮影できます。通常目では見えない瞬間をスロー再生で見ることができます。

詳しくはこちら **74** ページ



1920×1080 pixels

FHD動画撮影

高画質のFHD動画(1920×1080 pixels、30fps)が撮影できます。

詳しくはこちら **73** ページ

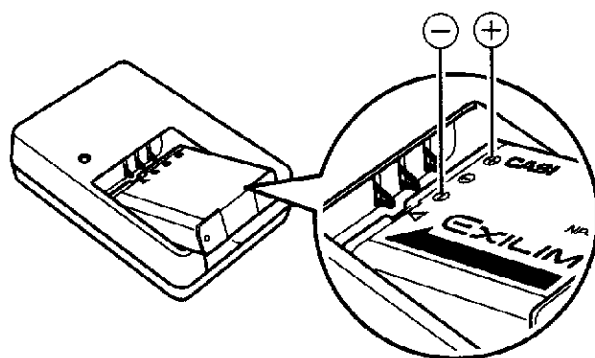
箱を開いたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の「電池を充電する」に従って充電してください。

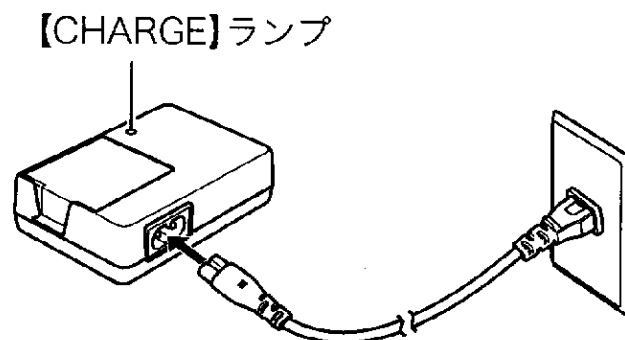
- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電電池(NP-130)を電源として使用します(NP-130以外の電池は使用できません)。

電池を充電する

1. 電池と充電器の極性(⊕⊖)を合わせ、電池を充電器にセットする
2. 充電器を家庭用コンセントに接続する
約4時間でフル充電されます。充電が完了すると【CHARGE】ランプが消灯します。電源コードをコンセントから抜き、そのあと充電器から電池を取りはずしてください。



動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／充電器の異常／電池の異常(197ページ)
消灯	充電完了



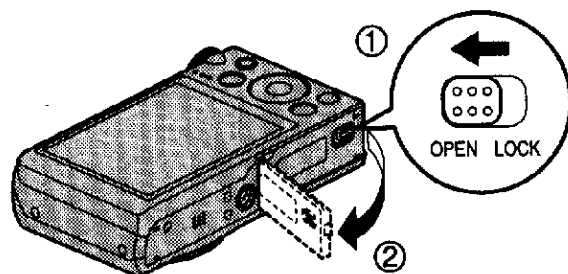
その他充電についてのご注意

- 充電電池(NP-130)は専用充電器(BC-130L)を使って充電してください。他の充電器では充電できません。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。

電池を入れる

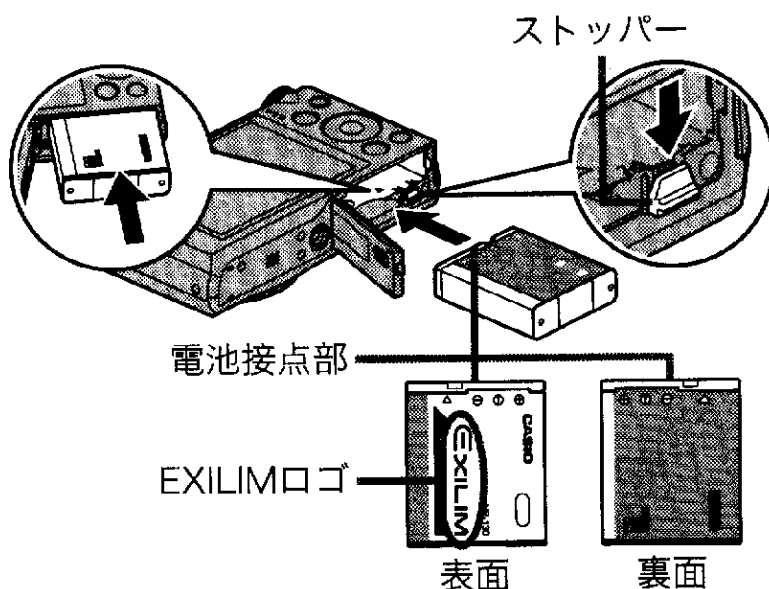
1. 電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。



2. 電池を入れる

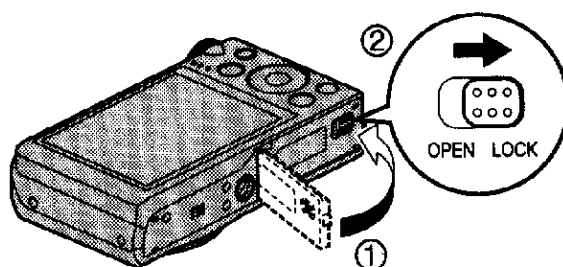
電池のEXILIMのロゴのある面を下(レンズ側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。



3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

- 電池の交換のしかたについては、197ページを参照してください。



電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い ←————→ 少ない							
電池残量表示		→		→		→		
残量表示の色	水色	→	オレンジ色	→	赤色	→	赤色	

“”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(183ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては222ページをご覧ください。

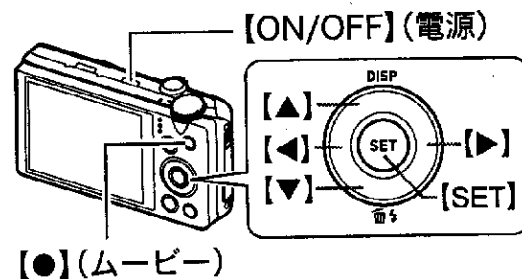
電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“” (発光禁止)にしてください(47ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます(185、185ページ)。
- “コンティニュアスAF”を“切”にする(104ページ)
- 不必要な(光学)ズーム操作を減らす

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

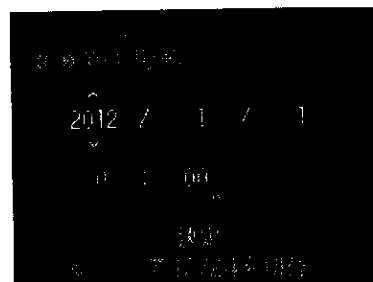
1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる



2. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間/24時間表示を切り替えるには、【●】(ムービー)を押します。



3. 日付/時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

日付/時刻を間違えて設定した場合、上記の手順では直せません。183ページをご覧ください。なり、設定し直してください。

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください(本機にメモリーカードは付属していません)。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- ・ 保存できる枚数については215ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

- SDメモリーカード
- SDHCメモリーカード
- SDXCメモリーカード



- ・ SD規格に準拠したSDカードをお使いください。
- ・ 本機では、Eye-Fiカードは使用できません。

当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>) をご覧いただくか、本書巻末記載の「お客様相談窓口(235ページ)」にお問い合わせください。

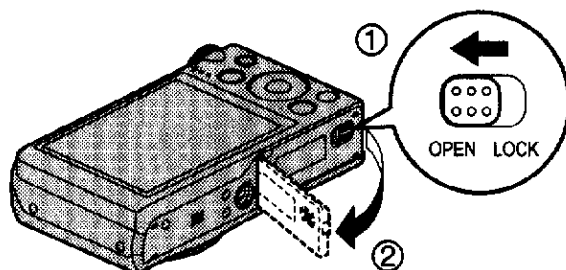
■ メモリーカードのご使用上の注意

カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。コマ落ちしている場合は、画面に表示されている“●REC”が黄色になります。動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>) 内のサポートページにある「サポート情報」内の「他社製SDメモリーカード／マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

メモリーカードを入れる

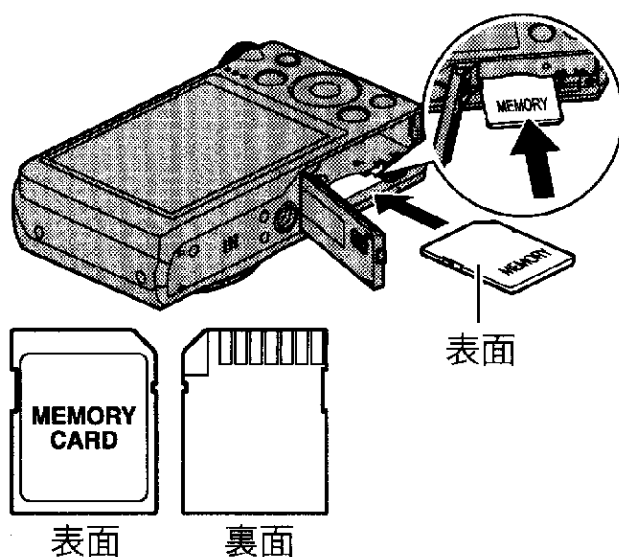
1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。



2. メモリーカードを入れる

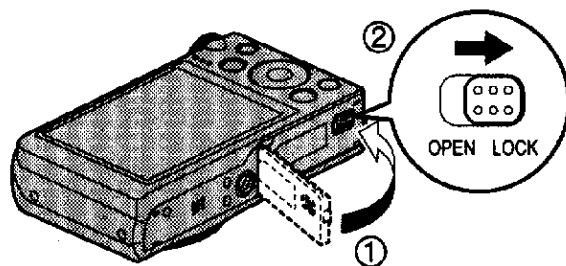
メモリーカードの表面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。



3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

- メモリーカードの交換のしかたについては、199ページを参照してください。



重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(21ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、「修理に関するお問い合わせ窓口(235ページ)」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

新しいメモリーカードを初めて使用するときは、カメラでフォーマットする必要があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。

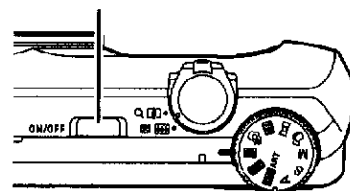
電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

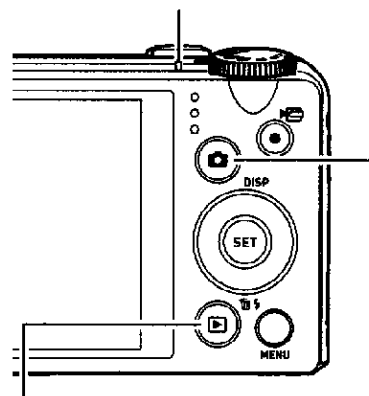
撮影モードで電源を入れる	【ON/OFF】(電源) または 【】(撮影) を押す ・ 後面ランプが緑色に一時点灯し、レンズが出てきます(26ページ)。
再生モードで電源を入れる	【】(再生) を押す ・ 後面ランプが緑色に一時点灯し、撮影した画像が再生されます(30ページ)。

- ・ レンズを押さえたりぶつかけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- ・ 撮影モードのときに**【】(再生)**を押すと再生モードに切り替わり、約10秒後にレンズが収納されます。
- ・ スリープ機能、オートパワーオフ機能(185、185ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。

【ON/OFF】(電源)



後面ランプ



【】(再生) **【】(撮影)**

■ 電源を切る

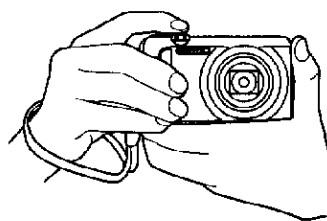
【ON/OFF】(電源)を押します。

- ・ **【】(撮影)**や**【】(再生)**を押しても電源が入らないようにすることができます。また、**【】(撮影)**や**【】(再生)**を押して電源が切れるようにすることもできます(186ページ)。

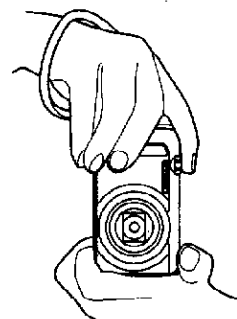
カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えてください。図のように持ち、脇をしっかり締めてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

横に持つとき



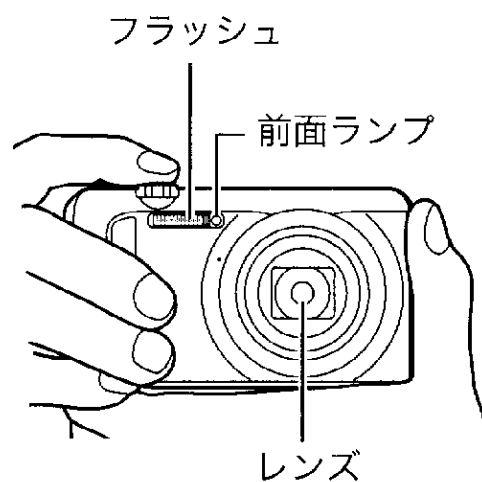
縦に持つとき



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

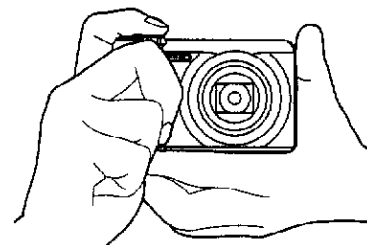
参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。
- “縦横自動回転”の設定が“入”のときは、縦に持って撮影した画像は再生時に自動的に90度回転して表示されます(180ページ)。



重要

- ・フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写りこんだりする原因になります。



静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

 オート	一般的なオート撮影モードです。 ・プレミアムオートよりも、スピーディーに撮影ができます。
 プレミアムオート	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 ・オートよりも、撮影直後の画像処理に時間がかかります。 ・オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

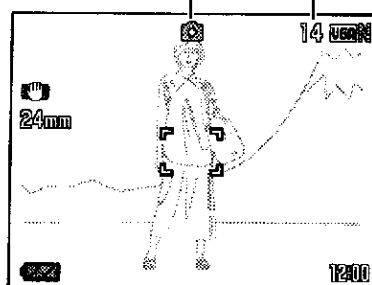
1. (撮影)を押して電源を入れる

撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

2. モードダイヤルを“” (オート)または“” (プレミアムオート)に合わせて、オート撮影モードを設定する

オート撮影モードアイコン

撮影可能枚数(215ページ)

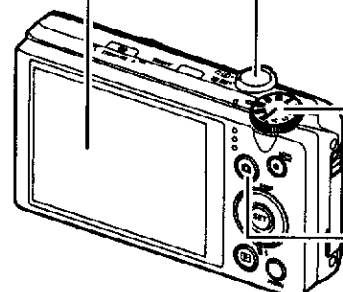


液晶モニター

シャッター

モードダイヤル

【】(撮影)

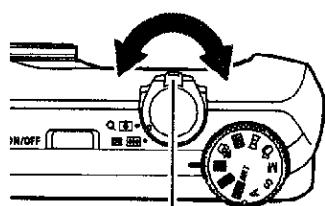


撮影する

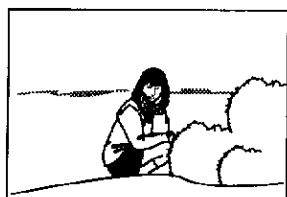
1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオートで撮影しようとする、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

- ・ズームの倍率を変更できます。



ズームレバー



広角



望遠

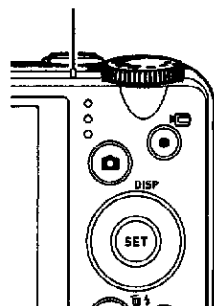


カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

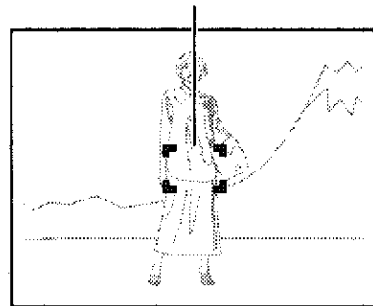
2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

後面ランプ

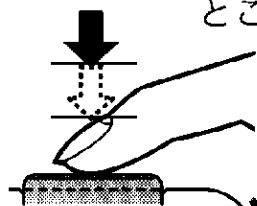


フォーカスフレーム



半押し

軽く押して止まる
ところまで



ピピッ (ピントが合います)

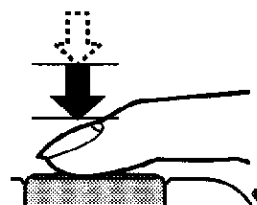
シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し

最後まで



カシャッ (撮影されます)

動画を撮影するには

【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度【●】(ムービー)を押すと終了します。

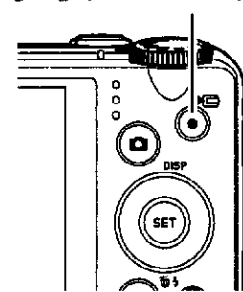
詳しくは下記をご覧ください。

標準的な動画(STD動画)→69ページ

高精細な動画(FHD動画)→73ページ

ハイスピード動画(HS動画)→74ページ

【●】(ムービー)



■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていない(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にない場合は

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(98ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます(“AF 追尾”(101ページ))。

■ プレミアムオートで撮影するとき

- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
 - シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
 - インテリジェントAF(101ページ)
 - 顔検出(102ページ)
- プレミアムオートで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオートで撮影すると、“プレミアムオート高画質化の処理中ですしばらくお待ちください”と表示される場合があります。もし画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオートでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。

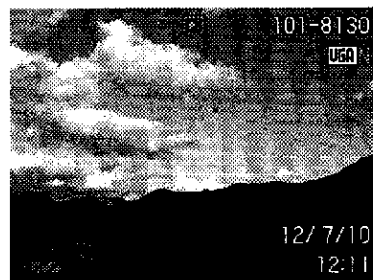
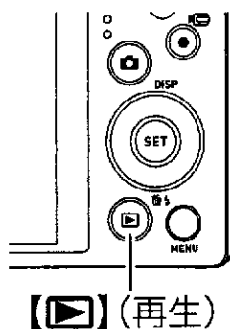
撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については111ページをご覧ください。
- 連写で撮影した画像については114ページをご覧ください。

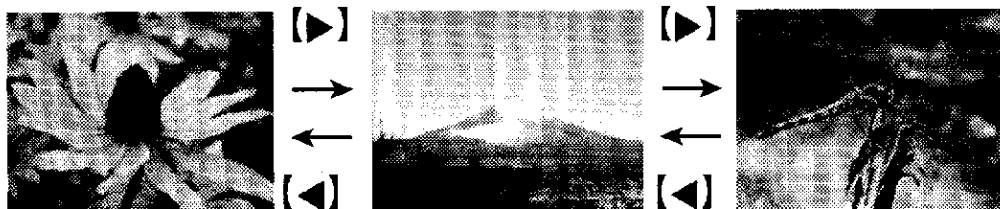
1. 【▶】(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(12ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(190ページ)。
- ズームレバーを【C/】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(120ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。



2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。



参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

★ 重要

- ・ 消去したファイルは元に戻せません。
- ・ 連写で撮影した画像については116ページをご覧ください。

1 ファイルずつ消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑️⚡)を押す

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- ・ 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- ・ 消去をやめるには、【MENU】を押してください。
- ・ 連写グループ(114ページ)を表示しているときは、表示中の連写グループ内にある全画像が消去されます。

1ファイル消去
連写ファイル消去
消去
キャンセル

選択したファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑️⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で“選択ファイル消去”を選び、【SET】を押す

- ・ 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で消去したいファイルに赤枠を移動し、**【SET】**を押す

- 選択したファイルの□にチェックが入ります。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、**【NEMU】**を押す

5. **【▲】【▼】**で“はい”を選び、**【SET】**を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順5で“いいえ”を選び、**【SET】**を押してください。

すべてのファイルを消去する

1. **【▶】**(再生)を押して再生モードにしたあと、**【▼】**()を押す

2. **【▲】【▼】**で“全ファイル消去”を選び、**【SET】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“はい”を選び、**【SET】**を押す

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- ・ 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- ・ 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- ・ 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- ・ 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質(108ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- ・ 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- ・ CMOSの特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。
- ・ ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- ・ CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

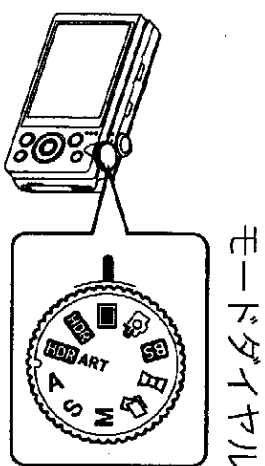
オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(98ページ)やマニュアルフォーカス(97ページ)で撮影してみてください。

静止画を撮影する(応用)

撮影モードを設定する

本機にはさまざまな撮影モードがあります。撮影する前に、モードダイヤルを回して被写体に合った撮影モードに設定してください。



□ オート

一般的なオート撮影モードです(26ページ)。

📷 シレミフルオート

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します(26ページ)。

BS ベストショット

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(81ページ)。

📷 シアトリバノラ

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を作成することができます(66ページ)。

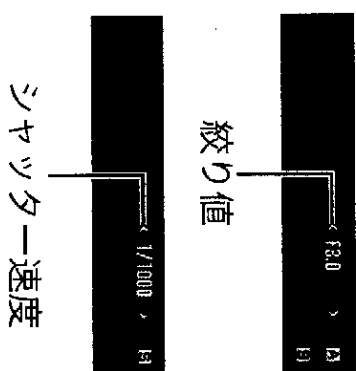
📷 連続撮影

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレしていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します(65ページ)。

M (マニュアル露出) モード

絞り値、シャッター速度を自由に設定して撮影することができます。

- ① [SET] を押して操作パネルを開く
- ② [▲][▼] で操作パネルの上から4番目の項目(絞り値)を開く
- ③ [◀][▶] で希望の絞り値に設定する
- ④ [▲][▼] で操作パネルの上から5番目の項目(シャッター速度)を開く
- ⑤ [◀][▶] で希望のシャッター速度に設定する



S (シャッター速度優先) モード

任意のシャッター速度に固定して撮影することが出来ます。

- ① [SET] を押して操作パネルを開く
 - ② [▲][▼] で操作パネルの上から4番目の項目(シャッター速度)を開く
 - ③ [◀][▶] で希望のシャッター速度に設定する
- ・シャッター速度の下の段に表示されているEVシフトを選び、露出値(EV値)を設定することもできます。



A (絞り優先)モード

任意の絞りに固定して撮影することができます。

① **【SET】**を押して操作パネルを開く

② **【▲】【▼】**で操作パネルの上から4番目の項目(絞り値)を開く

③ **【◀】【▶】**で希望の絞り値に設定する

・絞り値の下の段に表示されているEVシフトを選び、露出値(EV値)を設定することもできます。



絞り値

HDR ART HDRアート

HDR撮影(63ページ)を応用した従来の写真表現を超えた作品が作れます(64ページ)。

HDR HDR

露出の異なる複数の撮影を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれの少ない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます(63ページ)。

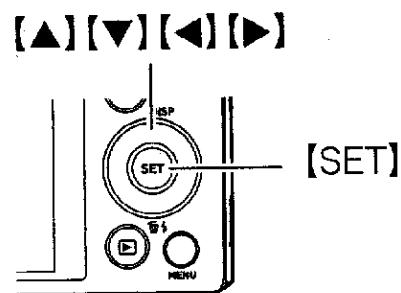
重要

- 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは、適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときは、Mモードで絞り値またはシャッター速度を適正な値に変更してください。
- Sモードでは、“ISO感度”(43ページ)は常に“AUTO”で動作し、設定をすることはできません。
- 撮影モードがA、S、Mモードで、フラッシュの設定が“**QA**”(フラッシュオート)または“**☺**”(赤目軽減)のときは、フラッシュは発光しません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を“**⚡**”(強制発光)にしてください。
- 露出オーバー、露出アンダー時は、シャッターの半押し時にISO感度とシャッター速度と絞り値がオレンジ色に表示されます。

操作パネルを使う

本機では、操作パネルを使って、撮影に関する設定を変更することができます。

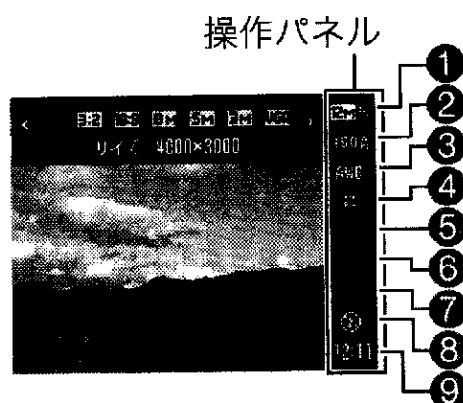
1. 撮影モードにして【SET】を押す



2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選ぶ

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。※1

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ① 画像サイズ／画質※2
(40、108ページ) | ⑤ 非表示 |
| ② ISO感度(43ページ) | ⑥ 非表示 |
| ③ ホワイトバランス
(44ページ) | ⑦ 非表示 |
| ④ EVシフト(46ページ) | ⑧ フラッシュ(47ページ) |
| | ⑨ 日付／時刻の表示
(49ページ) |



※1 撮影モードによって、項目が変わります。

※2 操作パネル上では画質の切り替えはできません。

3. 【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ

4. 【SET】を押して決定する

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

参考

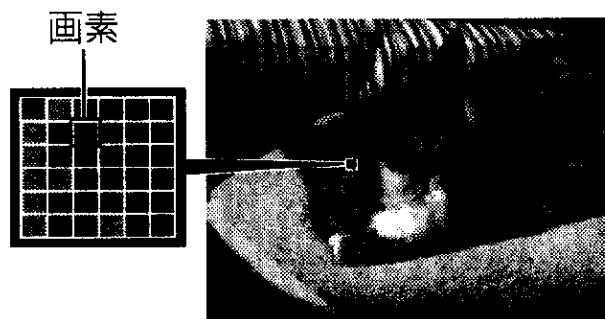
- 操作パネルの各項目が下記のように設定されている場合、画面上に設定状態を示す各項目のアイコン(11ページ)は表示されません。設定を変更すると、画面上に設定状態を示すアイコンが表示されます。
 - ISO感度: AUTO
 - ホワイトバランス: オートWB
 - EVシフト: ± 0
 - フラッシュ: フラッシュオート
- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます(94ページ)。

画像サイズを変更する(画像サイズ)

■ 画素について

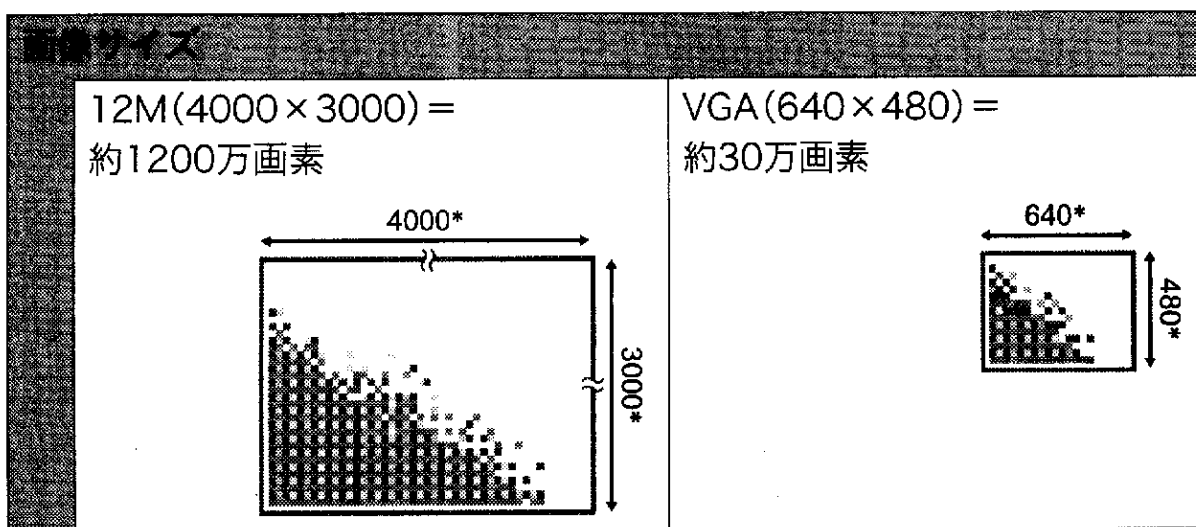
デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりでできています。

画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ(L版)へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。



■ 画像サイズについて

その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。



* 単位:画素

サイズを決める目安

画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

画素数が多い画像	精細だがデータ量が多くなる (A3用紙などに大きく印刷する場合などに適している)	
画素数が少ない画像	粗いがデータ量は少ない (Eメールで画像を送る場合などに適している)	

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→215ページ
- 動画の画像サイズについて→108ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする(リサイズ)→138ページ

■ 静止画の画像サイズを設定する

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番上の項目(静止画の画像サイズ)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

画素数(pixels)	プリント時の 用紙サイズの 目安や用途	特徴
12M(4000×3000)	ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(138ページ)しても画像が粗くなりにくいです。
3:2(4000×2656)	ポスタープリント	
16:9(4000×2240)	HDTVサイズ	
10M(3648×2736)	ポスタープリント	精細な画像が得られます。
8M(3264×2448)	A3プリント	
5M(2560×1920)	A4プリント	
3M(2048×1536)	L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。
VGA(640×480)	Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

- お買い上げいただいたときは、12M(1200万画素・pixels)で撮影するように設定されています。
- 3:2を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

- 一部機能では画像サイズの制限があります。

12M	撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2では選択できません。他のモードで“12M”を選んでいたら、撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2に切り替えると“10M”になります。
3:2、16:9	撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2では選択できません。他のモードで“3:2”または“16:9”を選んでいたら、撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2に切り替えると“10M”に、“連写モード”の設定が“F連写”の場合“12M”になります。
10M	撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2でのみ選択できます。撮影モードの一部※1、またはベストショットの一部※2のシーンで“10M”を選んでいたら、他のモードに切り替えると“12M”になります。

- 高速連写では画像サイズを“12M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。
- F連写では画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“12M”で撮影されます。

※1 HDR、HDRアート、いち押しショット

※2 マルチ超解像ズーム、子供の動きを連写します、ペットの動きを連写します、スポーツを連写します、ぴったりショット、HS夜景、HS夜景と人物、HS手ブレ補正

ISO感度を変える(ISO感度)

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目(ISO感度)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

AUTO	撮影条件により自動調整します。		
ISO 100	感度が低い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる (ノイズが減る)
ISO 200			
ISO 400			
ISO 800			
ISO 1600			
ISO 3200			
	感度が高い	シャッター速度が速い (暗い場所での撮影向き)	多少ざらつく (ノイズが増える)

- “AUTO” 設定時のみ被写体ブレ補正(100ページ)が働きます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズが多少増えます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

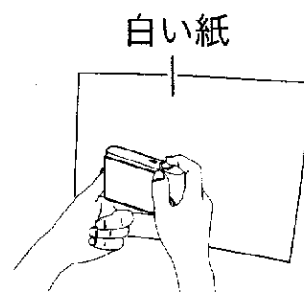
曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

AWB オートWB	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光	晴天時の野外での撮影用
曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰	晴天時のビルや木の陰などの撮影用
N 昼白色蛍光灯	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
D 昼光色蛍光灯	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球	電球の雰囲気を消した撮影用
MWB マニュアルWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ① “MWB マニュアルWB” を選ぶ ② 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③ 【SET】を押す 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。



- “**AWB** オートWB” では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

- ・ 露出補正值: $-2.0\text{EV} \sim +2.0\text{EV}$
- ・ 補正単位: $1/3\text{EV}$

1. 撮影モードにして【SET】を押す

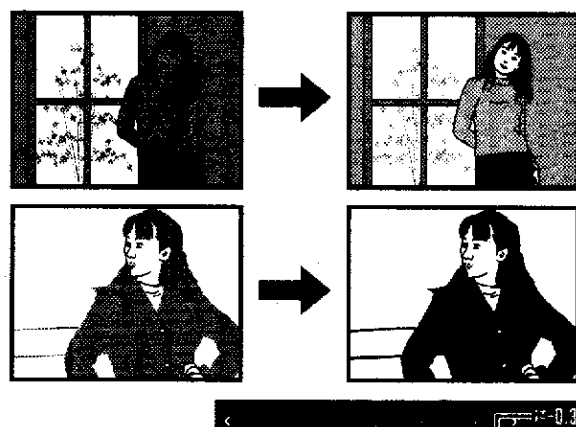
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目(EVシフト)を選ぶ

- ・ 撮影モードがAモード、Sモードのときは“EVシフト”は上から5番目になります。

3. 【◀】【▶】で露出補正值を選ぶ

【▶】: +方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

【◀】: -方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正值を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

露出補正值

4. 【SET】を押す

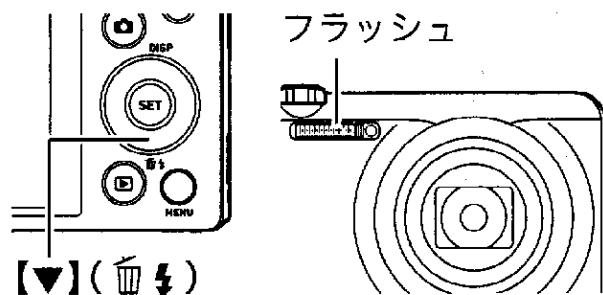
露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正值で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は“0.0”に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

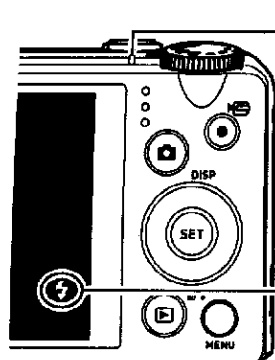
フラッシュを使う(フラッシュ)

1. 撮影モードで【▼】(⚡)を1回押す
2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す



⚡ フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
🚫 発光禁止	常に発光しません。
🔦 強制発光	常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
👁 赤目軽減	自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

3. シャッターを押して撮影する



後面ランプ

フラッシュ充電中は赤色に点滅します。

- 充電が完了して赤色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“⚡”を表示

- フラッシュが届く範囲については、220ページをご覧ください。

参考

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(220ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを“ⓧ”（発光禁止）に設定してください。
- 撮影モードがA、S、Mモードで、フラッシュの設定が“⚡A”（フラッシュオート）または“ⓧ”（赤目軽減）のときは、フラッシュは発光しません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を“⚡”（強制発光）にしてください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

操作パネル上の日付／時刻の表示を変える

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの一番下の項目(日付／時刻の表示)を選ぶ

【◀】【▶】で日付または時刻の表示が選べます。

参考

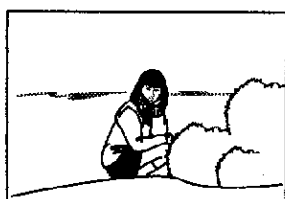
- 日付は“表示スタイル”(184ページ)の設定により、「月／日」と「日／月」の2つから選ぶことができます。
- 時刻は、24時間制で表示されます。

ズーム撮影する

本機のズームには光学ズーム、HDズーム、シングル超解像ズーム、マルチ超解像ズーム、デジタルズームがあります。最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式
シングル超解像ズーム	シングル超解像技術により画質の劣化を抑える方式(54ページ)
マルチ超解像ズーム	高速連写撮影を行い、画像を合成することで、シングル超解像ズームを超える領域まで画質の劣化を抑える方式(ベストショットで“マルチ超解像ズーム”のシーンを選んだ場合のみ、マルチ超解像ズームが有効になります。)(87ページ)
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式

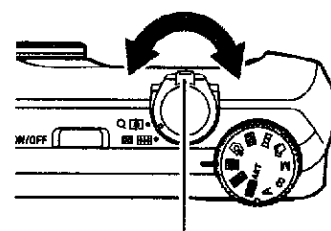
1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる



広角



望遠



ズームレバー

(広角) : 被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

(望遠) : 被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

2. シャッターを押して撮影する

参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中(ハイスピード動画を除く)も光学ズームの操作ができます。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。光学ズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。

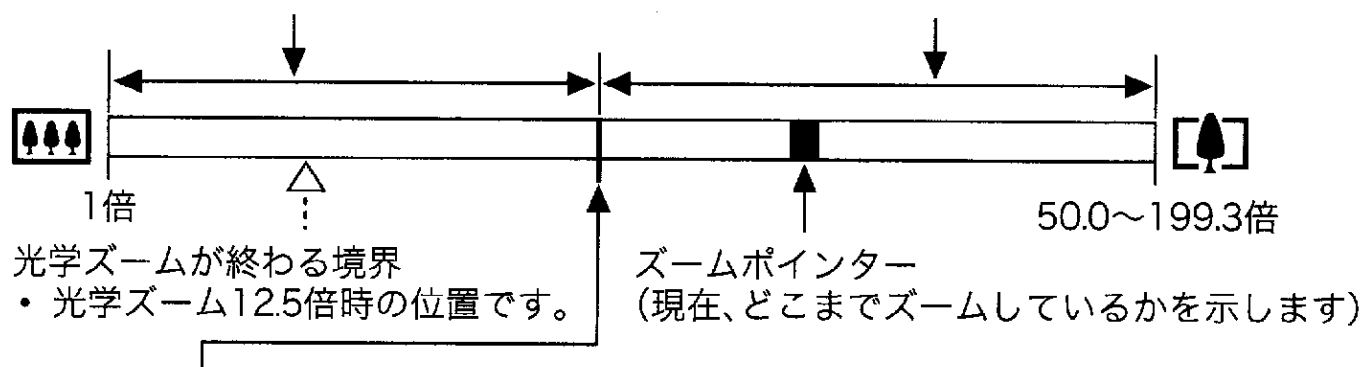
ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。

画質の劣化を抑えることができる範囲

(光学ズーム/HDズーム/
シングル超解像ズーム/マルチ超解像ズーム)

画質が劣化する範囲
(デジタルズーム)



画質の劣化が始まる境界

- 画像サイズ、超解像ズームの入/切によって境界の位置が変わります。
 - 超解像ズームが“切”の場合は12.5~78.0倍
 - 超解像ズームが“シングル”(シングル超解像ズーム)の場合は18.8~117.1倍
 - ベストショットが“マルチ超解像ズーム”の場合は25.0~142.3倍

■ ズーム時のアイコンの変化について

ズーム倍率によって画面上に表示されるアイコンが変化します。

光学ズーム	表示されない
HDズーム	表示されない
シングル超解像ズーム	 (白)
マルチ超解像ズーム	 (オレンジ)
デジタルズーム	

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(40ページ)、超解像ズームの設定、ベストショットの“マルチ超解像ズーム”の使用の有無(87ページ)によって異なります。

- ベストショットで“マルチ超解像ズーム”のシーンを選んだ場合のみ、マルチ超解像ズームが有効になります。

最大画像サイズが“12M”に設定できる撮影モードの場合

画像 サイズ	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率	
	超解像ズーム：切	超解像ズーム：シングル	超解像ズーム：切	超解像ズーム：シングル
12M	12.5倍	18.8倍	50.0倍	75.0倍
3:2	12.5倍	18.8倍	50.0倍	75.0倍
16:9	12.5倍	18.8倍	50.0倍	75.0倍
8M	15.4倍	23.0倍	61.3倍	91.8倍
5M	19.5倍	29.3倍	78.0倍	116.9倍
3M	24.4倍	36.6倍	97.5倍	146.3倍
VGA	78.0倍	117.1倍	199.3倍	199.3倍

最大画像サイズが“10M”に設定できる撮影モードの場合

画像 サイズ	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率	
	超解像ズーム：切	マルチ超解像ズーム	超解像ズーム：切	マルチ超解像ズーム
10M	12.5倍	25.0倍	50.0倍	100.0倍
8M	14.0倍	27.9倍	55.9倍	111.5倍
5M	17.8倍	35.6倍	71.3倍	142.3倍
3M	22.3倍	44.5倍	89.0倍	177.8倍
VGA	71.3倍	142.3倍	199.3倍	199.3倍

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

超解像ズームには“シングル超解像ズーム”と“マルチ超解像ズーム”があります。シングル超解像ズームは、超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えながらズームの範囲を広げることができます。マルチ超解像ズームは、高速連写撮影を行い、画像を合成することで、シングル超解像ズームを超える領域まで画質の劣化を最小限に抑えることができます。超解像ズームが有効な倍率の範囲については52ページをご覧ください。ここでは、シングル超解像ズームの設定方法を説明します。マルチ超解像ズームについては87ページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で“超解像ズーム”を選び、【▶】を押す

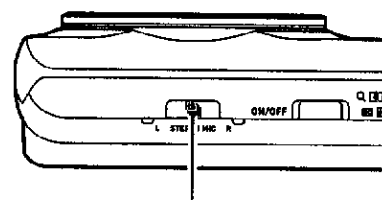
4. 【▲】【▼】で“シングル”(シングル超解像ズーム)を選び、【SET】を押す

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 超解像ズームでは、下記の機能は使用できません。
トリプルセルフタイマー、HDR、HDRアート、スライドパノラマ、いち押しショット、
ベストショット撮影の一部

何枚も連続して撮影する(連写)

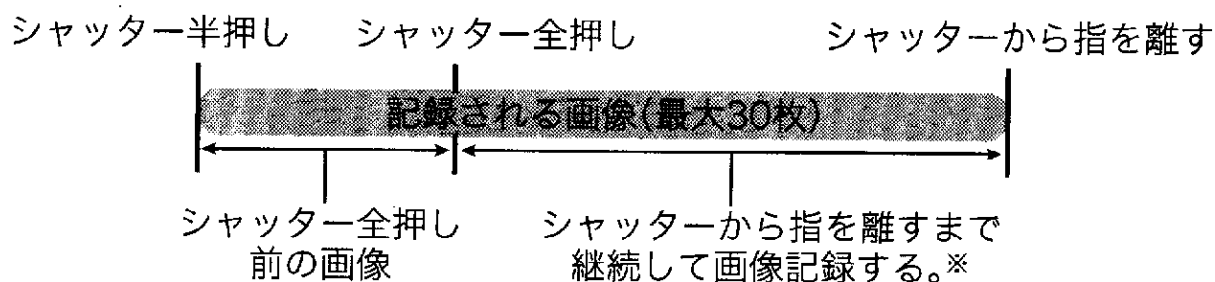
連続撮影を行うには、【】(連続撮影切替)を押して1枚撮影モード(26ページ)から連続撮影モードに切り替えます。連続撮影モードで【】(連続撮影切替)を押すと1枚撮影モードに戻ります。



【】(連続撮影切替)

高速連写/パスト連写で撮影する

シャッターを全押ししている間、連続撮影をします。連写の速度は、3枚/秒、5枚/秒、10枚/秒、15枚/秒、30枚/秒、40枚/秒のいずれかとなります。また、パスト連写では、シャッターの半押し中は、常に静止画を一時的に記録していますので、シャッターを全押しする前から全押し後に指を離すまで最大30枚まで連続撮影ができます。30枚の画像は、シャッター全押しの前後で振り分けて撮影できます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐのに利用できます。



※1回の撮影で記録できる画像は、シャッター全押し前の画像との合計で最大30枚です。

- 1回の撮影で記録できる最大枚数を設定することができます。設定値は5枚、10枚、20枚、30枚のいずれかです。
- シャッターの全押し前後で0.75秒間～10秒間までの連続撮影ができます。撮影できる最長の時間は連写の速度により決まります。連写の速度は3から40fpsまでの間で調節できます。

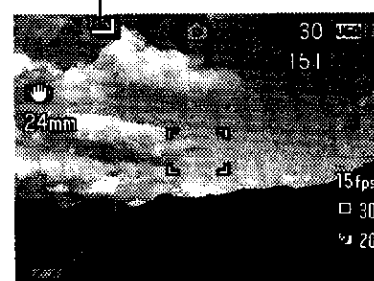
1秒間に40枚の速度で撮影する場合 (40fps)	最長0.75秒間で30枚撮影可能
1秒間に3枚の速度で撮影する場合 (3fps)	最長10秒間で30枚撮影可能

- 最大25枚までをシャッター全押し前までの連続撮影に割り当てることが可能です。
- シャッター全押し前に撮影できる画像の最小値は3枚です。撮影時間は連写fpsの設定により変わります。
- シャッターの全押し前に撮影できる画像は、0枚に設定可能ですが、この場合は、パスト連写撮影は行われません。普通的高速連写となります。

■ 準備をする

1. モードダイヤルを“”(オート)に合わせる
2. 撮影モードにして【MENU】を押す
3. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選ぶ
4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す
5. 【▲】【▼】で“高速連写”を選び、【SET】を押す

高速連写アイコン



6. 【】(連続撮影切替)を押す

- “” (高速連写)が表示され、画面が黄色い枠で囲まれます。この表示にならないときは、もう一度【】を押してください。

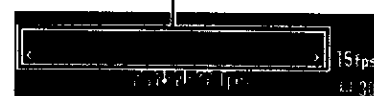
7. 【SET】を押す

8. 【▲】【▼】で操作パネルの下から4番目の項目(高速連写fps)を選ぶ

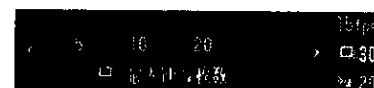
9. 【◀】【▶】で連写の速度(高速連写fps)を選ぶ

3~40枚(fps) 1秒間に何枚撮影できるか設定できます。

連写の速度



10. 【▲】【▼】で操作パネルの下から3番目の項目(最大連写枚数)を選ぶ

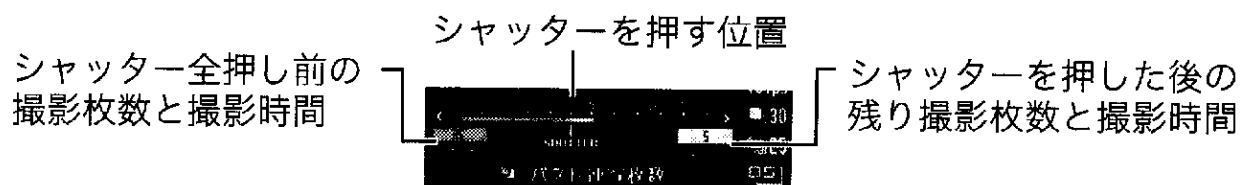


11. 【◀】【▶】で1回の撮影で記録する最大枚数を選ぶ

12. 【▲】【▼】で操作パネルの下から2番目の項目(パスト連写枚数)を選ぶ

13. 最大30枚の画像のうちで、何枚まで、またはどのくらいの時間をシャッター全押し前の撮影に割り当てるかを【◀】【▶】で選ぶ

- シャッター全押し前の撮影枚数と撮影時間を0にすると、パスト連写撮影は行われません。

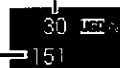


14. 【SET】を押す

- 連続撮影できる枚数の目安が画面に表示されます。

連続撮影可能枚数(パスト連写を行わない場合は、さらに連続撮影可能時間も表示されます。)

静止画撮影可能枚数



■ 撮影する

1. シャッターを半押しして、パスト連写を開始する

シャッターを半押し中は、カメラ内に一時的にシャッター全押し前までの画像を設定時間分繰り返し記憶します。

- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。
- このとき、シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

2. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押し直前からの画像と現在の画像を記録します。シャッターを押し続けている間、連続撮影します。

3. シャッターから指を離すか、最大連写枚数で設定した枚数の画像が撮影されると撮影を停止する

参考

- 高速連写fpsを設定する場合は以下を参考にしてください。
 - 被写体の動きが速いときは、高速連写fpsを上げる。
 - 被写体の動きがそれほど速くないときは、高速連写fpsを下げる。
- 最大枚数を設定する場合は以下を参考にしてください。
 - 連写枚数が多いほど、撮影後の保存に時間がかかります。
- パスト枚数を設定する場合は以下を参考にしてください。
 - 撮りたい瞬間を知覚して、指がシャッターを押す動作が終了するまでの時間は、最低でも0.1秒から0.3秒はかかってしまうため、パスト時間が最低でも0.3秒以上になるようにパスト枚数を設定することをおすすめします。

■ メカニカルシャッターのみを使用する高速連写で撮影する(F連写)

CMOS撮像素子の特性上、電子シャッターを用いる高速連写では動きの速い被写体が歪むことがあります。F連写(フルピクセル連写)では、CMOS撮像素子の特性上の歪みを排した画像を高速連写できます。ただし、連写の速度は3枚/秒、5枚/秒、10枚/秒、最大連写枚数は5枚、10枚、20枚、30枚のいずれかとなります。また、パスト連写はできません。

■ 準備をする

1. モードダイヤルを“”(オート)に合わせる
2. 撮影モードにして【MENU】を押す
3. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選ぶ
4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す
5. 【▲】【▼】で“F連写”を選び、【SET】を押す
6.  (連続撮影切替)を押す
 - ・ “”(F連写)が表示されます。この表示にならないときは、もう一度を押してください。
7. 【SET】を押す
8. 【▲】【▼】で操作パネルの下から4番目の項目(F連写fps)を選ぶ

9. 【◀】【▶】で連写の速度(F連写fps)を選ぶ

1秒間に何枚撮影できるか設定できます。

10. 【▲】【▼】で操作パネルの下から3番目の項目(最大連写枚数)を選ぶ

11. 【◀】【▶】で1回の撮影で記録する最大枚数を選ぶ

12. 【SET】を押す

■ 撮影する

1. シャッターを全押しし続ける

シャッターを押し続けている間、連続撮影します。

2. シャッターから指を離すか、最大連写枚数で設定した枚数の画像が撮影されると撮影を停止する

参考

- “F連写”では連続して撮影した場合、次の撮影まで数秒間お待ちいただくことがあります。

連写時のご注意

- 連写撮影(高速連写、F連写)時はマニュアルモード撮影が可能です。モードダイヤルを“A”、“S”、“M”にしてください。
- 連写時は、静止画の画質が自動的に“標準-N”となります。
- 連写時に残り枚数が少なくなってきた場合、残り枚数分撮影できない場合があります。メモリーカードに十分な空き容量がある状態で撮影してください。
- 高速連写、F連写では、露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないでください。
- 高速連写、F連写では、フラッシュは自動的に“③” (発光禁止)となります。
- 連写中はズーム操作はできません。
- 高速連写では画像サイズを“12M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。
- F連写では画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“12M”で撮影されます。
- 高速連写、F連写時は、メモリーカードに十分な空き容量があっても、1回あたりの最大連写可能撮影枚数が制限されます。

最大連写枚数設定で設定した枚数

メモリーカードの空き容量がこの撮影可能枚数容量よりも少ない容量しか空きがない場合は、撮影枚数が制限されたり、撮影できなくなったりします。

- 連写では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
- パスト連写ではセルフタイマー機能が使用できません。
- プレミアムオートでは連続撮影はできません。
- 高速連写では超解像ズームは使用できません。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の撮影を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“HDR”(HDR)に合わせる

2. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で芸術的な写真を撮影する(HDRアート)

HDR撮影(63ページ)を応用した従来の写真表現を超えた作品が作れます。また、本機ではアート効果の強さを調節することができます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“**HDR ART**”(HDRアート)に合わせる

2. **[SET]**を押す

3. **[▲]****[▼]**で操作パネルの上から5番目の項目(アート効果)を選ぶ

4. **[◀]****[▶]**でアート効果の強さを選ぶ

レベル1	弱
レベル2	標準
レベル3	強

5. **[SET]**を押す

6. シャッターを押して撮影する

- ・ シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

良い顔の画像だけ撮影する(いち押しショット)

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“” (いち押しショット) に合わせる

2. シャッターを押して撮影する

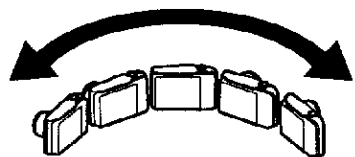
- シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止) になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 連写した画像が全てブレた画像の場合は、ブレた画像が保存されてしまいます。
- 以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされませんので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存されるときがあります。
 - 顔の一部、もしくは全面が、影などの影響で暗くなっている場合
 - 髪の毛が、目に被っている、もしくは接近している場合
 - 眼鏡をかけている場合
 - 顔が小さい場合
 - 顔が正面を向いていない場合
- 撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。

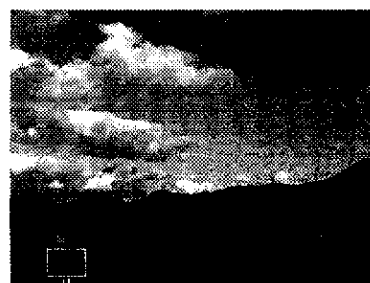
パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を作成することができます。



- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
 - スライド方向が右／左方向の場合：約12M(11520×1080 pixels)
 - スライド方向が上／下方向の場合：約14M(1920×7296 pixels)
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“” (スライドパノラマ) に合わせる
2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの下から5番目の項目(スライド方向)を選ぶ
3. 【◀】【▶】でスライド方向(カメラを動かす方向)を選び、【SET】を押す
スライド方向は、右／左／上／下の4種類があります。
4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる
5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端(スライド方向が右の場合は右端)に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす
 - ・ スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
 - ・ カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、“処理中ですしばらくお待ちください”とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。



スライドカーソル

参考

- 以下の場合、スライドパノラマ撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
 - 主な被写体とカメラとの距離が近い
 - 動いている被写体
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- 周囲が暗い状況で撮影した場合、画像がブレたり、撮影ができなかったりすることがあります。
- カメラは画面上の矢印の方向に同じ速度でゆっくり動かしてください。
- カメラは画面に表示される矢印に対して、できる限り平行に動かしてください。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- 連写撮影がうまくいかなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 動いている被写体を撮影したときは、うまく画像を合成できない場合があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。

動画を撮影する

動画を撮影する

ここでは、標準的な動画(STD動画)の撮影方法を説明します。

他の動画撮影については下記をご覧ください。

高精細な動画(FHD動画) → 73ページ

ハイスピード動画(HS動画) → 74ページ

1. モードダイヤルを“”(ムービー)に合わせる

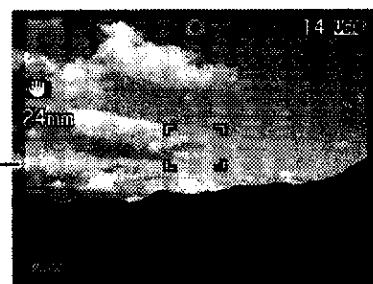
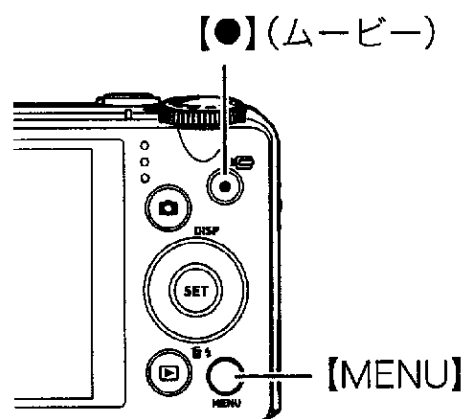
2. 撮影モードにして【MENU】を押す

3. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ

4. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“STD”(スタンダード)を選び、【SET】を押す

- 画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム/秒で撮影されます(STD動画)。画像サイズの変更はできません。
- 画面上に半透明のグレーの枠が表示されますが、これは動画撮影時の撮影範囲です。枠の内側の範囲が動画で撮影されます。



半透明のグレーの枠

6. 【●】(ムービー)を押す

撮影が開始され、液晶モニターに“●”が表示されます。
撮影中は音声(ステレオ)も録音されます。

撮影可能な残り時間
(216ページ)

7. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- ・ 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。



撮影時間

ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(81ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます。たとえば、ベストショットの“緑を鮮やかに写します”を選んでから動画を撮影すると、森や草原の緑が鮮やかに撮影できます。

- ・ 以下のベストショットでは動画撮影できません。

マルチ超解像ズーム、ぴったりショット、HS手ブレ補正

動画撮影時の手ブレ軽減

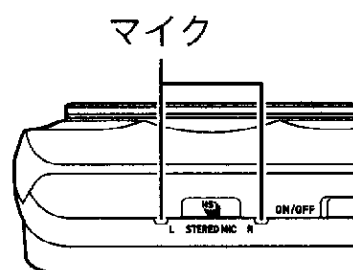
FHD動画、STD動画では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます(100ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

音声について

撮影中は音声(ステレオ)もマイクで録音されます。

■ 録音時のご注意

- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないでください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にズーム操作を行うと、ズームやオートフォーカスの動作音が録音されることがあります。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- ムービーモードが“HS”の場合は、フレームレートが“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声は録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。



★ 重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。
- 内蔵メモリーを使用して動画を撮影するとコマ落ちします。動画を撮影する場合は内蔵メモリーではなく高速なメモリーカードをご使用ください。

- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。コマ落ちしている場合は、画面に表示されている“”が黄色になります。動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>)内のサポートページにある「サポート情報」内の「他社製SDメモリーカード／マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

参考

- 動画撮影中(ハイスピード動画を除く)もズームの操作ができます(50ページ)。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。光学ズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズーム、マルチ超解像ズームは無効です(54、87ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- “フォーカス方式”を“AF”または“マクロ”にした場合、動画撮影中(ハイスピード動画を除く)は常時“コンティニュアスAF”が動作します(104ページ)。
- ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- 動画(FHD、STD、ハイスピード)撮影中は、顔検出機能は無効となります。
- 動画撮影、パストムービー、YouTubeでは、Aモード、Sモード、Mモードでの撮影はできません。“” (オート)での撮影になります。
- 下記のベストショット撮影では、常にハイスピード動画撮影となるため、“画質”の設定は無効となります。
子供をスローで録画します、ペットをスローで録画します、スポーツをスローで録画します
- 下記の機能では動画撮影はできません。
HDR、HDRアート、スライドパノラマ、いち押しショット

高精細な動画を撮影する

本機は高精細な動画(FHD動画)が撮影できます。この動画はアスペクト比が16:9、画像サイズが1920×1080 pixels、フレームレートが30フレーム/秒になります。画質、画像サイズの変更はできません。

1. モードダイヤルを“”(オート)に合わせる
2. 撮影モードにして【MENU】を押す
3. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ
4. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す
5. 【▲】【▼】で“FHD”を選び、【SET】を押す
6. 通常の動画撮影と同様に撮影する(69ページ)
【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

ハイスピード動画を撮影する

本機では最高1000コマ/秒のハイスピード動画が撮影できます。動画のアスペクト比はフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります。

- ・ムービーモードが“HS”の場合は、フレームレートが“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

1. モードダイヤルを“”(オート)に合わせる

2. 撮影モードにして【MENU】を押す

3. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ

4. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影速度(フレームレート)を選び、【SET】を押す

フレームレートを速く(1000fps)すると画像サイズが小さくなります。

 画質	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)
HS1000	1000fps	224×64
HS480	480fps	224×160
HS240	240fps	432×320
HS30-240	30-240fps	432×320

※fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。

6. 通常の動画撮影と同様に撮影する(69ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

- ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- “30-240fps”の撮影では、撮影前は30fpsに固定されます。撮影中のみ30fpsと240fpsのスピードに切り替えが可能です。30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。

スピードの調節は、【◀】【▶】または【SET】を押して切り替えてください。

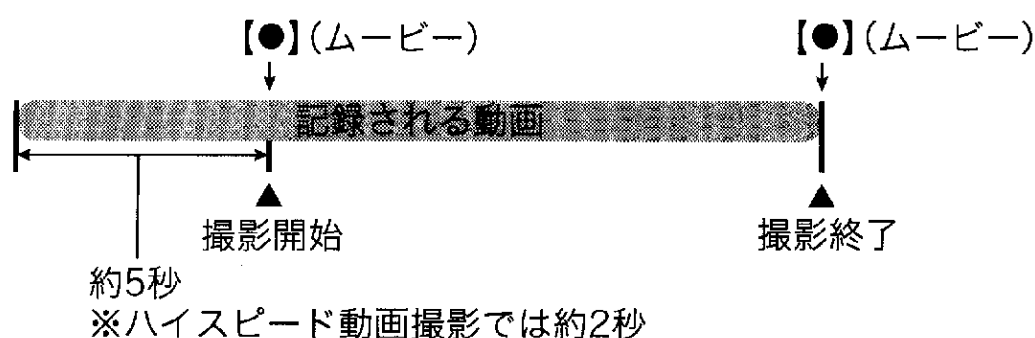
参考

- 撮影速度(フレームレート)が高くなるほど、撮影時の周囲の明るさが必要になります。ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- 動画の種類によっては、撮影中の画面が狭くなります。ハイスピード動画の撮影時は画面の上下左右に黒い帯が入ります。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。
- ハイスピード動画撮影時は、液晶モニターの表示内容の切り替えはできません。

撮影開始前のシーンも動画に記録する(パストムービー)

パストムービーではカメラ内に常に過去の映像を一時的に記録していますので、撮影開始5秒前からの動画を記録することができます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐことができます。標準的な動画(STD動画)、高精細な動画(FHD動画)、ハイスピード動画(HS動画)のいずれのムービーモードでも、パストムービーの撮影が可能です。

- ・ハイスピード動画撮影では、撮影開始前の記録時間は2秒になります。



■ パストムービーの準備をする

1. モードダイヤルを“**BS**”(ベストショット)に合わせる
2. 撮影モードにして【MENU】を押す
3. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ
4. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す
5. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選ぶ
6. 【SET】を押す

7. 【SET】を押す

-
- ## 8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
- 液晶モニターに“” (パストムービー)が表示されます。

■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影を開始する

【●】(ムービー)を押す約5秒前(ハイスピード動画撮影時は約2秒前)から動画の撮影が始まっています。

2. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- ・ パストムービー撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを“” (オート)に合わせます。
- ・ ハイスピード動画撮影の“30-240fps”でのパストムービー撮影では、過去の動画撮影記録時は、fpsの切り替えができません。【●】(ムービー)を押したあとは、fpsの切り替えができます。

参考

- ・ パストムービーで動画撮影を開始する前は、シャッターを押しても、静止画撮影はできません。動画撮影中は静止画の撮影ができます(FHD動画/STD動画の場合のみ)。
- ・ パストムービーでハイスピード動画を撮影するときは、“左右キー設定”を“EVシフト”や“ホワイトバランス”に設定していても、左右キーを押しても“EVシフト”や“ホワイトバランス”の設定を変更することはできません。これらの設定を変更する場合は、操作パネルから変更してください。

YouTube用の動画を撮影する(YouTube)

YouTube, LLC社が運営する動画サイトYouTubeに掲載するのに最適な動画データを、撮影することができます。標準的な動画(STD動画)、高精細な動画(FHD動画)、ハイスピード動画(HS動画)のいずれのムービーモードでも、YouTubeに掲載できる動画の撮影が可能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選ぶ
3. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選ぶ
5. 【SET】を押す
6. モードダイヤルを“BS”(ベストショット)に合わせる
7. 【SET】を押す
8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“YouTube”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“”(YouTube)が表示されます。

9. 動画を撮影する

動画データは、メモリー内の「100YOUTB」という記録フォルダに保存されます。

- “YouTube”で撮影した動画ファイルを、パソコンで簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、付属のCD-ROMに収録されているYouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールします(162ページ)。
- YouTubeの撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを“”(オート)に合わせます。

参考

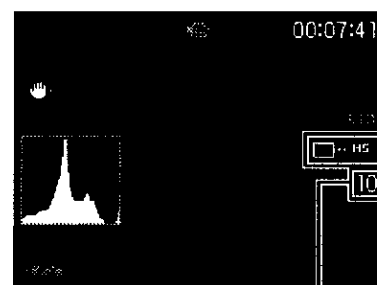
- “YouTube”で撮影した動画は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(177ページ)。なお、このシーンでは、ムービーモードの設定(69ページ)で設定した画像サイズ、撮影速度、画質で撮影されます。
- “YouTube”では動画の撮影中、撮影前にかかわらず静止画の撮影はできません。
- 1回の撮影で保存できるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、再生時間が15分までです。撮影するムービーモードによって、1回の撮影での最大撮影可能時間は異なります(217ページ)。

動画撮影中に静止画を撮影する(スチルインムービー)

本機では動画撮影中でも静止画を撮影することができます。1枚撮影モードでは1枚ずつ撮影できます。また、連写撮影モードでは1回の撮影で約10fps(1秒間で約10枚)の速さで、最大7枚まで連写撮影可能です。1回の動画撮影中には合計で、最大28枚まで撮影可能です。

1. 動画撮影中に、シャッターを押す

- 連写撮影モードでは、シャッターを押し続けている間、連続撮影します。
- 静止画撮影中でも動画撮影は途切れません。
- 動画撮影中のみ撮影モードを切り替えることができます。【】(連続撮影切替)、【◀】、【▶】、【SET】のいずれかを押し、1枚撮影モードと連写撮影モードの切り替えができます。画面の“”が赤くなると連写撮影モードになり、“”が赤くなると1枚撮影モードになります。



静止画撮影可能枚数

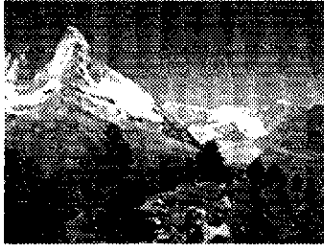
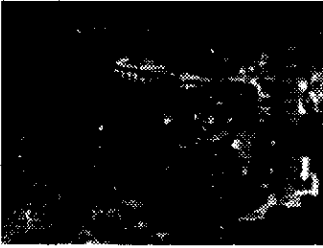
参考

- スチルインムービーでの撮影枚数は最大28枚までです。
- 動画撮影中の静止画撮影(スチルインムービー)では、フラッシュ撮影はできません。
- FHD動画、STD動画撮影時以外はスチルインムービーでの静止画撮影はできません。
- 記録する静止画のサイズは、動画撮影を開始する前の画像サイズ設定で、“12M”、“3:2”、“16:9”が選択されている場合は“10M”になります。他は選択されているサイズで記録されます。
- スチルインムービーで撮影された静止画は、1枚撮影モードで撮影される画像よりも撮影範囲が狭くなります。
- スチルインムービーでの静止画撮影ではピント合わせはできません。動画撮影時のピントと同じになります。
- FHD動画撮影中に撮影した静止画は、FHD動画より広い範囲で撮影されます。
- 連写時は、静止画の画質が自動的に“標準-N”となります。
- スチルインムービーは“”(オート)で撮影されます。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 撮影シーンの例

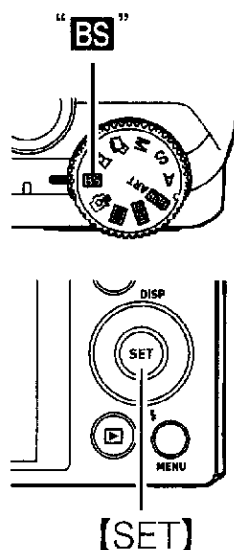
			
人物を写します	風景を写します	HS夜景	HS夜景と人物

ベストショットで撮影する

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“BS”(ベストショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

ベストショットのシーン一覧が表示されます。



現在のシーン(枠部分)

BS BEST SHOT											
											
人物を写します										12	
シーン名						シーン番号					

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- ・【▲】【▼】を押していくと、別のシーナー一覧が表示されます。
- ・選んだシーンの詳しい内容を確認できます。
- ・通常の静止画撮影に戻るには、モードダイヤルを“”（オート）に合わせてください。

4. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

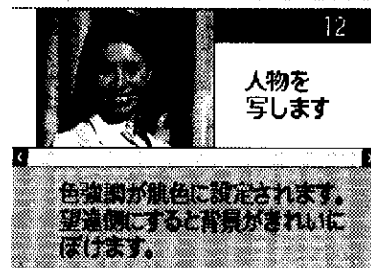
- ・別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- ・別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

5. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】（ムービー）を押す

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーナー一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- ・一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- ・次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- ・表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】



■ ベストショット撮影の注意

- ・シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- ・被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- ・選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。

- 下記のベストショット撮影では、静止画撮影はできません。
ベストショット内の動画撮影シーン、パストムービー、YouTube
- 下記のベストショット撮影では、動画撮影はできません。
マルチ超解像ズーム、ぴったりショット、HS手ブレ補正
- 下記のベストショット撮影では、FHD動画、STD動画撮影はできません。必ずハイスピード動画の撮影となります。
子供をスローで録画します、ペットをスローで録画します、スポーツをスローで録画します
- ベストショット撮影では、シーンを選択する前が1枚撮影モード、連続撮影モードにかかわらず、選択したベストショットシーン固有の撮影となります。
- 下記のベストショット撮影では、画像サイズを“12M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。
マルチ超解像ズーム、子供の動きを連写します、ペットの動きを連写します、スポーツを連写します、ぴったりショット、HS夜景、HS夜景と人物、HS手ブレ補正
- 各ベストショットのシーンが選ばれているときの動画撮影は、FHD/STD動画撮影では各シーンに適した動画撮影となりますが、ハイスピード動画撮影では、選択されているシーンには依存せずオートでの動画撮影となります。
- 下記のベストショット撮影では、“超解像ズーム”の設定は無効になります。
マルチ超解像ズーム、子供の動きを連写します、ペットの動きを連写します、スポーツを連写します、ぴったりショット、HS夜景、HS夜景と人物、HS手ブレ補正

自分好みの設定を登録する(カスタム登録)

設定内容をベストショットに登録(最大999件)して、同じ設定で撮影することができます。

1. ベストショットのシーンで「BEST SHOT(新規登録)」のシーンを選ぶ

2. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

参考

- ・ 静止画のみ静止画用のベストショットのシーンとして登録できます。動画の登録はできません。
- ・ 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- ・ 登録したシーン番号は、登録した順に、U1、U2・・・となります。
- ・ 登録される設定内容
顔検出、フォーカス方式、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュ、ISO感度、測光方式、ライティング、フラッシュ光量、カラーフィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- ・ カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」(静止画用)フォルダに保存されます(177ページ)。
- ・ 内蔵メモリーをフォーマット(189ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。
- ・ 登録したシーンを削除する場合は下記の手順で削除してください。
 - ①シーンの説明画面(82ページ)から削除したいシーンを表示させる
 - ②【▼】(⏏)を押したあと“解除”を選び、【SET】を押す
- ・ 下記の機能で撮影した静止画は、カスタム登録できません。
プレミアムオート、HDR、HDRアート、スライドパノラマ、いち押しショット

デジタル処理で夜景をきれいに撮影する (HS夜景/HS夜景と人物)

手持ち撮影か三脚撮影かをカメラが自動的に判定し、手持ち撮影と判定されたときは1回のシャッターで連写をし、連写画像を自動的に合成してブレの少ない夜景撮影または夜景と人物撮影ができます。三脚と判定されたときは長時間露光の1枚撮影となり、さらにきれいに撮影できます。“HS夜景”の場合はフラッシュは発光禁止となり、フラッシュの設定を変更することはできません。人物と一緒に撮影したい場合は、“HS夜景と人物”を選んでください。“HS夜景と人物”ではフラッシュが“**FA**”(フラッシュオート)になります。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“**BS**”(ベストショット)に合わせる

2. **[SET]**を押す

3. “HS夜景”または“HS夜景と人物”を選び、**[SET]**を押す

4. シャッターを押して撮影する

- ・ シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示してからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- ・ これらのベストショットシーンでの撮影時に、手持ち撮影を行うときは連写撮影となりますので、被写体はできるだけ動かないようにしてください。
- ・ “HS夜景と人物”では、手持ち撮影でも撮影環境によっては1枚撮影となる場合があります。
- ・ この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- ・ 三脚にセットしてあっても揺れがある場合は、手持ちと判定されることがあります。

- “HS夜景”または“HS夜景と人物”では、周囲が極端に暗い場合、露出不足により適正な明るさで撮影できないことがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”は“AUTO”に固定されます。

デジタル処理で手ブレ補正をする(HS手ブレ補正)

1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、光学手ブレ補正で補正できないような場面でも手ブレが軽減された撮影ができます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“BS”(ベストショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. “HS手ブレ補正”を選び、【SET】を押す

4. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示してから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたりするときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”は“AUTO”に固定されます。

ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する (マルチ超解像ズーム)

超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“**BS**”(ベストショット)に合わせる

2. **[SET]**を押す

3. “マルチ超解像ズーム”を選び、**[SET]**を押す

4. シャッターを押して撮影する

- ・ シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- ・ この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- ・ この機能での撮影では、“超解像ズーム”(54ページ)の設定は無効となります。
- ・ この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“**③**”(発光禁止)になります。
- ・ この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- ・ 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- ・ 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

撮りたい瞬間により近い画像を撮影する(ぴったりショット)

撮りたい瞬間にシャッターを押しても、シャッターを押す動作が遅れてしまい、その瞬間が撮影できないことがあります。“ぴったりショット”を使うことで撮りたい瞬間により近い画像を撮影することができます。“ぴったりショット”では、シャッターを半押しして構え、そこから撮りたい瞬間にシャッターを全押しすると、その時点の静止画とその前の静止画が4枚一時的に記録されます。その後、液晶モニターで保存したい1枚を選ぶことができます。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“BS”(ベストショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. “ぴったりショット”を選び、【SET】を押す

4. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しする

カメラ内に一定の時間静止画を一時的に記録します。

- このとき、シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。
-

5. シャッターを全押しして撮影する

撮影が終わると、保存する予定の画像が3秒間表示されます。

6. 他の候補(画像)を見たいときは、撮影した画像が表示されてから3秒以内に【SET】を押す

3秒以内に【SET】を押さないと、手順4で表示された画像が保存されます。

7. 【◀】【▶】で保存したい画像を表示させる

【◀】【▶】で保存する画像を下記の順で表示できます。

−0.4sec. ↔ −0.3sec. ↔ −0.2sec. ↔ −0.1sec. ↔ SHUTTER
(0.4秒前) (0.3秒前) (0.2秒前) (0.1秒前) (シャッター全押し時)

- ここで選んだ画像によって、次回撮影時に手順4で表示される画像が決まります。ここで0.3秒前の画像を選んだときは、次回撮影時に、手順4で0.3秒前の画像が表示されます。

8. 【SET】を押す

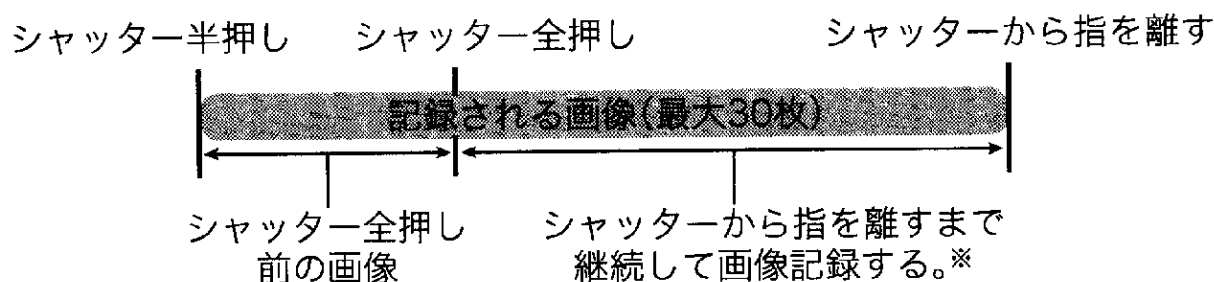
表示されている画像を保存します。

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- この機能での撮影では、セルフタイマーは無効になります。
- フォーカスや露出はシャッターを半押ししたときの値で固定されます。
- シャッターを半押ししないで全押しした場合や、半押しの時間が十分でない場合(0.4秒以下)は撮影できません。
- 被写体に対する注意がそれているようなときは、撮りたい瞬間からシャッターを全押しするまでの時間が大幅に延びてしまうことがあるため、その場合はこの機能を使っても遅れてしまうことがあります。
- この機能の撮影では、“撮影レビュー”(106ページ)の設定は無効となり、シャッター全押し直後は常に画像を表示します。

連写でいろいろな被写体を撮る

本機には、気軽に高速連写で撮影するためのシーンが収録されています(子供の動きを連写します、ペットの動きを連写します、スポーツを連写します)。シャッターを全押ししている間、連続撮影をします。連写の速度は各シーン毎に最適な値が設定されています。また、シャッターの半押し中は、常に静止画を一時的に記録していますので、シャッターを全押しする前から全押し後に指を離すまで、最大30枚までの連続撮影ができます(パスト連写(55ページ))。30枚の画像は、シャッター全押しの前後で振り分けて撮影でき、決定的シーンの撮り逃しを防ぐのに最適です。



※ 1回の撮影で記録できる画像は、シャッター全押し前の画像との合計で最大30枚です。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“**BS**”(ベストショット)に合わせる

2. **[SET]**を押す

3. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

各シーンでの設定内容は下記の通りです。

タイトル	連写fps	最大連写枚数	バスト枚数
子供の動きを連写します	10fps	20枚(2秒)	5枚(0.5秒)
ペットの動きを連写します	15fps	30枚(2秒)	5枚(0.3秒)
スポーツを連写します	30fps	30枚(1秒)	10枚(0.3秒)

※これらの設定は変更することができます。詳しくは55ページをご覧ください。

4. シャッターを半押しして、バスト連写を開始する

シャッターを半押し中は、カメラ内に一時的にシャッター全押し前までの画像を設定時間分繰り返し記憶します。

- このとき、シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。
- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。

5. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押し直前からの画像と現在の画像を記録します。シャッターを押し続けている間、連続撮影します。

6. シャッターから指を離すか、最大連写枚数で設定された枚数の画像が撮影されると撮影を停止する

参考

- “連写モード”の設定(“高速連写”、“F連写”)は無効となり、常に高速連写での撮影となります。操作パネルや撮影のしかた、機能上の注意事項は、“高速連写”(55ページ)と同様です。ただし、撮影モードのA、S、Mモードは使用できません。
- シャッターを半押ししないで全押しした場合は、パスト連写(シャッター全押し前からの撮影)は行われません。できるだけシャッター半押しでカメラを構えた状態から、シャッター全押しを行ってください。

ハイスピード動画でいろいろな被写体を撮る

本機には、気軽にハイスピード動画で撮影するためのシーンが収録されています(子供をスローで録画します、ペットをスローで録画します、スポーツをスローで録画します)。

1. 撮影モードにして、モードダイヤルを“BS”(ベストショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

タイトル	フレームレート
子供をスローで録画します	240fps
ペットをスローで録画します	240fps
スポーツをスローで録画します	480fps

4. 通常の動画撮影と同様に撮影する(69ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

- ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- この動画撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを“”(オート)に合わせます。

参考

- このベストショット撮影では常にハイスピード動画撮影となるため、“画質”の設定は無効となります。
- 撮影のしかたや機能上の注意事項は、ハイスピード動画撮影時(74ページ)と同様ですが、以下の機能は使用できません。
 - 撮影モードのA、S、M
 - パストムービー
 - YouTube用動画撮影

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。

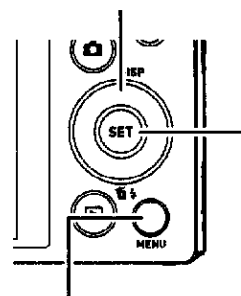
メニュー操作を覚える

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
メニュー画面が表示されます。

- ・ メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。

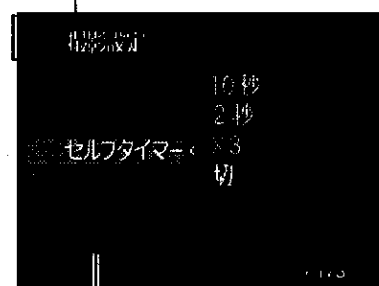
【▲】【▼】【◀】【▶】



【MENU】 【SET】

例：“撮影設定”タブ、
“セルフタイマー”
選択時

タブ



設定項目

2. 【◀】【▶】で設定したい項目のある
タブを選ぶ

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選
び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

5. 【SET】を押して決定する

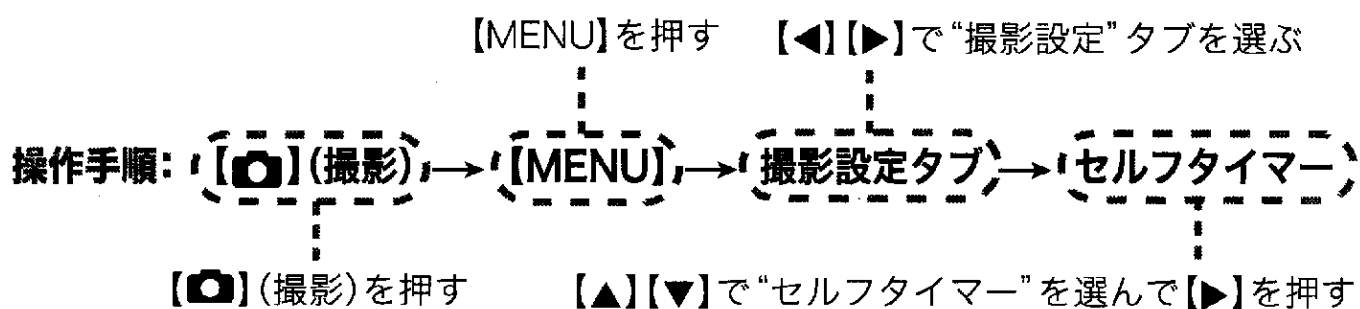
- ・ 【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。
- ・ 他のタブを選ぶときは、【◀】を押したあと【▲】でタブの位置に戻り、【◀】【▶】で切り替えます。
- ・ 【MENU】を押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

● 重要

- ・ オート撮影モード(26ページ)をプレミアムオートに設定すると、一部のメニューは使用できなくなります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「メニュー画面の操作例」(94ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。



撮影設定について(撮影設定)

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → 超解像ズーム**
詳しくは54ページをご覧ください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → フォーカス方式**

設定項目	用途	ピントの合わせ方		ピントが合う距離※1	
		静止画	動画	静止画	動画
AF オートフォーカス	一般的な撮影	自動	自動※3	約5cm～∞(無限遠)(W端)	
MF マクロ	近くのを撮影	自動	自動※3	約1cm～約50cm (W端から5段ズーム時)	
MF スーパーマクロ	近くのを大きく撮影	自動	自動※3	約1cm～約50cm	
∞ 無限遠	景色などの遠景の撮影	固定		無限遠(W端)	
MF マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせたい場合	手動		約5cm～∞(無限遠)(W端)※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。

※2 ピントが合う距離は光学ズームの位置で変わります。

※3 ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。
ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。

スーパーマクロについて

被写体にもっとも近寄って撮影できる状態に光学ズームを固定することにより、被写体をより近くで、より大きく撮影することができます。

参考

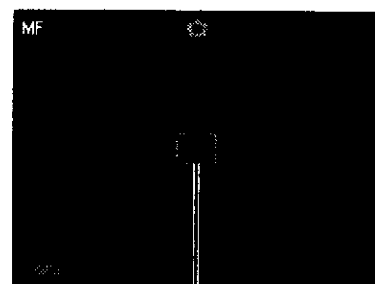
- スーパーマクロに設定するとズーム状態は固定され、ズームレバーをスライドさせてもズームは作動しなくなります。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。



ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 動画撮影時のオートマクロ機能は、撮影開始前は動作しますが撮影中は固定焦点となります。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。

- ・オートフォーカス／マクロ／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。オートフォーカスの時のみオートマクロの範囲を含んだ距離の範囲を表示します。

例：○○cm - ∞

※○○には数字が入ります。

- ・マニュアルフォーカスを選択しているとき、“左右キー設定”で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(105ページ)。
- ・“顔検出”を使用している場合は、“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)となりますが、“フォーカス方式”を“AF”以外に切り替えると、“顔検出”は“切”となります。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- ・AFエリアは、“**[AF]** スポット”または“**[AF]** 追尾”にしておきます(101ページ)。

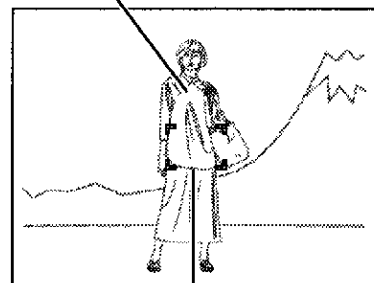
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

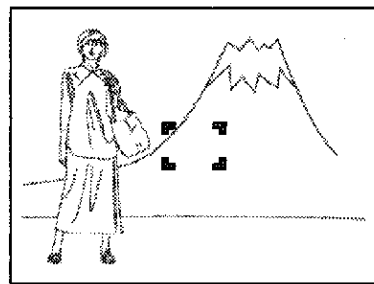
- ・AFエリアを“**[AF]** 追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. シャッターを最後まで押し込む

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム



参考

- ・フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

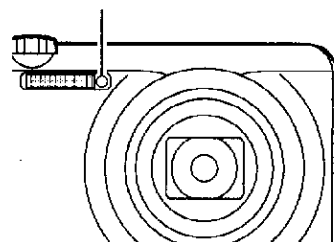
操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → セルフタイマー**

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

 10秒	10秒後に撮影されます。
 2秒	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
 3 (トリプルセルフタイマー)	10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
切	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

前面ランプ



参考

- セルフタイマーが使用できない撮影機能
高速連写でパスト連写を行っているとき、パストムービー、ぴったりショット、子供の動きを連写します、ペットの動きを連写します、スポーツを連写します、スライドパノラマ
- トリプルセルフタイマーのみが使用できない撮影機能
動画撮影、高速連写、マルチ超解像ズーム、子供をスローで録画します、ペットをスローで録画します、スポーツをスローで録画します、いち押しショット、YouTube

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ補正)

操作手順: 【】(撮影)→【MENU】→撮影設定タブ→手ブレ補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ補正の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

 入	手ブレ、被写体ブレを軽減します。
 切	ブレ軽減は行いません。
 手ブレDEMO	シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、実際に撮影することはできません。

参考

- FHD動画/STD動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- ハイスピード動画撮影時は手ブレ補正機能は動作しません。
- “入”に設定時は、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません(撮影直後の画像確認画面に表示されます)。
- “入”で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ補正”の設定を“切”に設定してください。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

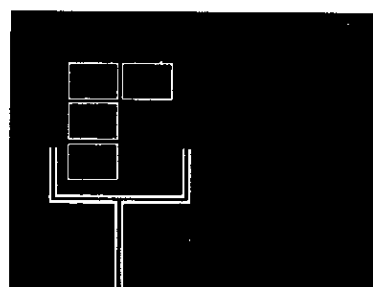
操作手順: **【CAM】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → AFエリア**

静止画撮影時のオートフォーカスの測定範囲を変更することができます。

・ 動画撮影時の設定は“**AFスポット**”に固定になります。

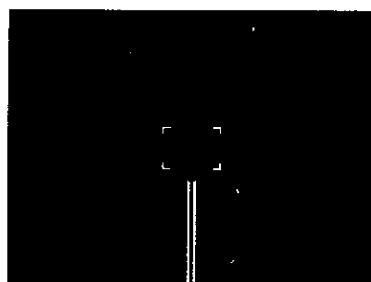
AF インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます(自動認識AF)。 ・ 顔検出(102ページ)も自動的に動作します。
AF スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(98ページ)を活用した撮影に便利です。
AF マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。
AF 追尾	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

“**AF** インテリジェント”
の場合



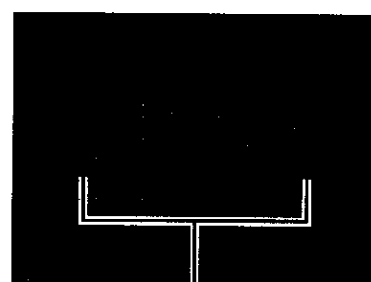
フォーカスフレーム

“**AF** スポット”、
“**AF** 追尾”の場合



フォーカスフレーム

“**AF** マルチ”の場合



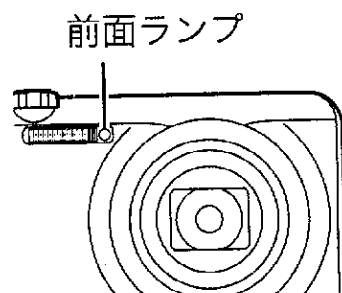
フォーカスフレーム

- 一部のベストショット撮影では“**[AF]**追尾”は使用できません。
- 顔検出機能の使用中は、“**[マルチ]**”は使用できません。

ピント合わせを補助するライト(AF補助光)

操作手順: **[カメラアイコン]**(撮影) → **[MENU]** → 撮影設定タブ → AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは“切”に設定することをおすすめします。



重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

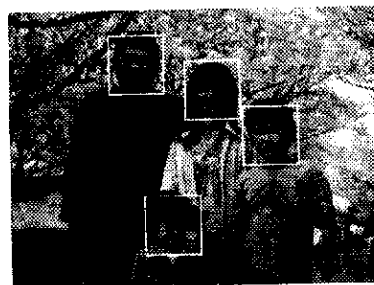
操作手順: **[カメラアイコン]**(撮影) → **[MENU]** → 撮影設定タブ → 顔検出

人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

1. **[◀][▶]**で“入”を選び、**[SET]**を押す

2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。



3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

4. シャッターを全押しして撮影する

よりよい顔検出撮影のために

- 顔が検出できない場合は、中央にピントを合わせます。
- フォーカス方式は必ずオートフォーカス(AF)となります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
 - 顔の一部が頭髮、サングラス、帽子などでさえぎられている人物、または顔に濃い影が落ちている人物
 - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
 - 距離が遠すぎて顔が小さすぎる人物、または距離が近すぎて顔が大きすぎる人物
 - 極端に暗い場所での人物
 - ペットなど人物以外の被写体

重要

- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
 - ベストショット撮影の一部
 - 動画撮影(ハイスピード動画撮影を行う一部のベストショットを含む)
 - 高速連写でパスト連写を行っているとき(高速連写撮影を行う一部のベストショットを含む)
- “顔検出”を使用すると“フォーカス方式”は必ず“**AF**”(オートフォーカス)に固定されます。“フォーカス方式”を切り替えたいときは“顔検出”を“切”にしてください。

常にオートフォーカスを動作させる(コンティニユアスAF)

操作手順:  (撮影) → **[MENU]** → **撮影設定タブ** → **コンティニユアスAF**
“入”にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- ・ シャッターを半押しする前は画面の中央にピントを合わせ続けます。

連写モードを変える(連写モード)

操作手順:  (撮影) → **[MENU]** → **撮影設定タブ** → **連写モード**

連続撮影時の動作方法を変えることができます。

 高速連写	最大30枚まで連続撮影ができます。詳しくは55ページをご覧ください。
 AF連写	メカニカルシャッターのみを使用し、最大30枚までの連続撮影ができます。詳しくは60ページをご覧ください。

デジタルズームを設定する(デジタルズーム)

操作手順:  (撮影) → **[MENU]** → **撮影設定タブ** → **デジタルズーム**

デジタルズーム(50ページ)を使用したいときは“入”にしてください。

- ・ 下記の撮影では、デジタルズームは使用できません。
 - － ハイスピード動画撮影中

左右キーに機能を割り当てる(左右キー設定)

操作手順: **【カメラアイコン】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → 左右キー設定**

【◀】【▶】キーに以下の7つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます(キーカスタマイズ)。

AF →  →  → ∞	ピントの合わせ方を変える → 96ページ ・ ただし、“MF”(マニュアルフォーカス)は選択できません。
測光方式	光の測りかたを変える → 109ページ
セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する → 99ページ
顔検出	顔検出の入/切 → 102ページ
ISO感度	ISO感度を変える → 43ページ
ホワイトバランス	色合いを調整する → 44ページ
EVシフト	明るさを補正する → 46ページ
切	【◀】【▶】 キーに機能を割り当てない

撮影時、液晶モニターに基準線を表示する(グリッド表示)

操作手順: 【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → グリッド表示

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。“入”にするとグリッドを表示します。



撮影直後の画像を表示する(撮影レビュー)

操作手順: 【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → 撮影レビュー

“入”にすると、撮影直後の画像が約1秒間表示されます。

- 撮影レビューは1枚撮影時に有効となります。連写時は機能しません。

画面上のアイコンの意味を確認する(アイコンガイド)

操作手順: 【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

アイコンの意味を確認できる機能

- 撮影モード
- 左右キー設定で設定できる項目
- シャッター半押し時の露出警告

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 撮影設定タブ → モードメモリ**

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切(初期設定)	入
フラッシュ	オート	最後の状態
フォーカス方式	AF (オートフォーカス)	
ISO感度	AUTO	
ホワイトバランス	オートWB	
EVシフト	0.0	
AFエリア	スポット	
測光方式	マルチ	
連写モード	高速連写	
セルフタイマー	切	
フラッシュ光量	0	
超解像ズーム	シングル	
デジタルズーム	入	
MF位置	MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置	
ズーム位置※	ワイド端	

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

画質設定について(画質設定)

静止画の画質を設定する(画質)

操作手順: **[カメラアイコン]**(撮影) → **[MENU]** → 画質設定タブ → **[静止画]**画質(静止画)

高精細-F	画質を優先
標準-N	標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、“高精細-F”にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります(215ページ)。

動画の画質を設定する(動画画質)

操作手順: **[カメラアイコン]**(撮影) → **[MENU]** → 画質設定タブ → **[動画]**画質(動画)

動画の画質と撮影方法を設定することができます。

FHD	高精細な動画(FHD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります(73ページ)。
STD	標準的な動画を撮影するときに選びます。アスペクト比が4:3、画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム/秒で撮影されます(STD動画)。画像サイズの変更はできません(69ページ)。
HS1000 HS480 HS240 HS30-240	ハイスピード動画を撮影するときに選びます。動画の画像サイズはフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります(74ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

操作手順: 【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → 測光方式

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

 マルチ	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
 中央重点	中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
 スポット	センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順: 【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → ライティング

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

入	明るさが補正されます。ただし撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	明るさの補正は行いません。

フラッシュの明るさを変える(フラッシュ光量)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → フラッシュ光量**

+2(フラッシュの明るさが最も強い)から-2(フラッシュの明るさが最も弱い)までの5段階から選べます。

- ・ 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → カラーフィルター**

設定できる内容: 切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

鮮鋭さを変える(シャープネス)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → シャープネス**

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → 彩度**

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

操作手順: **【】(撮影) → 【MENU】 → 画質設定タブ → コントラスト**

+2(明暗の差がもっとも大きい)から-2(明暗の差がもっとも小さい)までの5段階から選べます。

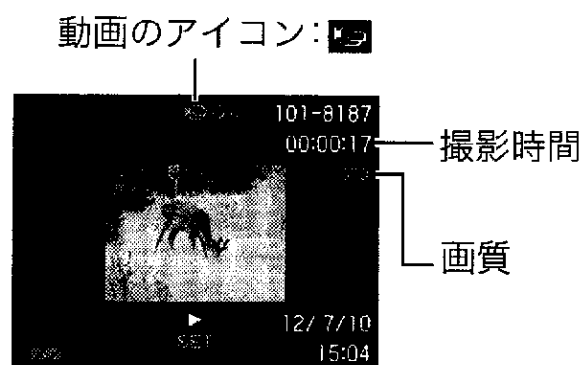
静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については30ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. **【▶】**(再生)を押して、**【◀】****【▶】**で再生したい動画(ムービー)を表示させる
2. **【SET】**を押して、再生を始める



動画の再生中にできること

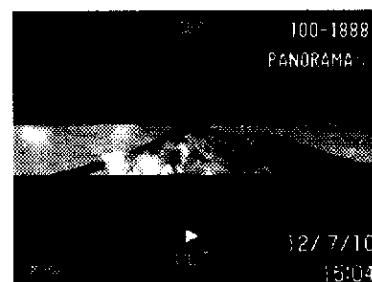
早送り／早戻しする	【◀】 【▶】 ・ 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 ・ 通常の再生に戻るときは【▼】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】 【▶】 ・ 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】 を押したのち 【▲】 【▼】 を押す ・ 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】 (DISP)

拡大する	ズームレバーを【Q】(Q)側にスライド ・ 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】

- ・ このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

撮影したパノラマ画像を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいパノラマ画像を表示させる
2. 【SET】を押して、パノラマ画像を再生する
パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。



再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】(スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】【▼】(スライド方向が上方向、下方向の場合) ・ 押し続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】

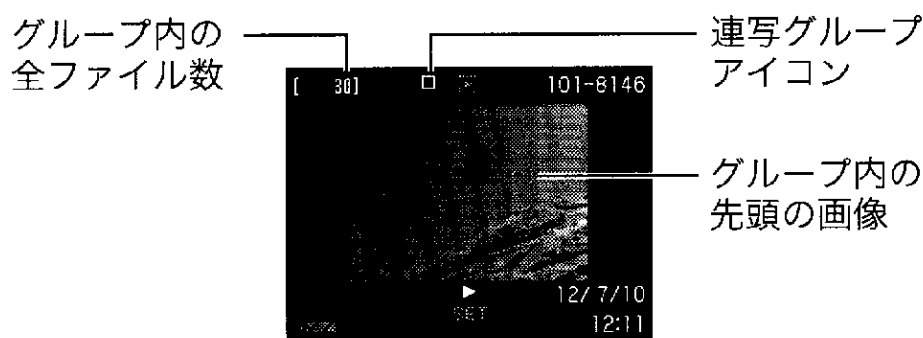
- パノラマ画像は下記の機能が使用できません。

ダイナミックフォト、ムービーへ変換、モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ、ライティング、ホワイトバランス、明るさ編集、回転表示

連写した静止画を見る

本機では、1回の連写で撮影した複数の画像は1つのグループにまとまった形(連写グループ)で再生されます。

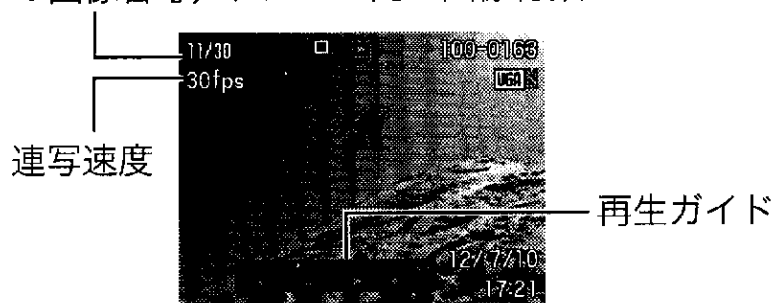
1. 【再生】(再生)を押して、【<】【>】で再生したい連写グループを表示させる



2. グループを表示させた後、約1秒経過すると自動的にグループ内の連写画像が高速で再生される

- グループ内の連写画像が最後まで再生されると、元の連写グループ表示に戻ります。
- この状態では連写画像を1枚1枚コマ送りやコマ戻しをしたり、再生速度を変えることはできません。この状態で【SET】を押すと、再生の一時停止や再生スピードの調整、再生方向の変更、1枚ごとのコマ送りやコマ戻し、連写画像の拡大・縮小、1枚ごとの消去が可能になります。

表示中の画像番号／グループ内の画像総数



【SET】を押したあとの操作について

【◀】【▶】	再生中は再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し ・ 画像の拡大中は再生スピードの調整はできません。
【SET】	一時停止、再生の切り替え
ズームレバー	拡大、縮小 ・ 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 ・ 拡大していないときにズームレバーを【🔍】(🔍)側にスライドさせると、この連写グループ内の画像を一覧表示します。
【MENU】	連写グループの再生終了
【▲】(DISP)	情報表示の切り替え
【▼】	連写フレーム編集メニューの表示

■ 連写画像の消去

再生中または一時停止中に消去できます。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。
2. 【▲】【▼】で“消去”を選び【SET】を押す
3. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる
4. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
 - ・ 続けて別のファイルを消去する場合は手順3～4を繰り返します。
 - ・ 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

■ 選択したファイルを消去する

1. 連写画像を【SET】を押して再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。
2. 【▲】【▼】で“消去”を選び【SET】を押す
3. 【▲】【▼】で“選択フレーム消去”を選び、【SET】を押す
 - ・ 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

4. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で消去したいファイルに赤枠を移動し、**【SET】**を押す

- ・ 選択したファイル左下の□にチェックが入ります。

5. 消去したいファイルの選択が終了したら、**【MENU】**を押す

6. **【▲】【▼】**で“はい”を選び、**【SET】**を押す

- ・ 選択したファイルが消去されます。
- ・ 消去をやめるには、手順6で“いいえ”を選び、**【SET】**を押してください。

■ 連写グループ内のすべてのファイルを消去する

1. 連写画像を**【SET】**を押して再生しているとき、または一時停止中に**【▼】**を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. **【▲】【▼】**で“消去”を選び**【SET】**を押す

3. **【▲】【▼】**で“グループ内全消去”を選び、**【SET】**を押す

4. **【▲】【▼】**で“はい”を選び、**【SET】**を押す

■ 連写画像をグループ解除する(連写グループ解除)

グループ内の画像を通常の静止画のように1枚ずつの画像にできます。

■ 1グループずつグループ解除する

1. 連写グループ表示中、または連写グループ内の画像の自動再生中に【MENU】を押す
2. 【◀】【▶】で“再生機能”タブを選ぶ
3. 【▲】【▼】で“連写グループ解除”を選び、【▶】を押す
4. 【◀】【▶】でグループ解除したい連写グループを表示する
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
 - ・ 続けて別のファイルを解除する場合は手順4～5を繰り返します。

■ すべてのグループを解除する

✳ 重要

- ・ 一度、連写グループを解除すると再グループ化はできません。

1. 連写グループ表示中、または連写グループ内の画像の自動再生中に【MENU】を押す
2. 【◀】【▶】で“再生機能”タブを選ぶ
3. 【▲】【▼】で“連写グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. **【▲】【▼】**で“全グループ解除”を選び、**【SET】**を押す

5. **【▲】【▼】**で“はい”を選び、**【SET】**を押す

■ 連写画像をコピーする(コピー)

連写画像内の画像を1枚ずつ選んでグループ外にコピーすることができます。

1. 連写画像を**【SET】**を押して再生しているとき、または一時停止中に**【▼】**を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. **【▲】【▼】**で“コピー”を選び**【SET】**を押す

3. **【◀】【▶】**でグループ外にコピーしたいファイルを表示させる

4. **【▲】【▼】**で“コピー”を選び、**【SET】**を押す

■ 参考

- ・ 連写グループ内の静止画は下記の機能が使用できません。“コピー”で1枚の静止画として保存してから下記の機能をご使用ください。
ホワイトバランス、明るさ編集、トリミング、回転表示、リサイズ

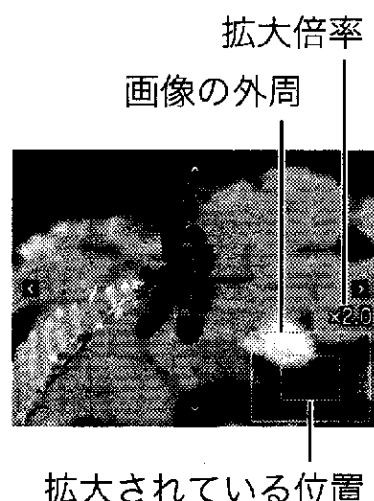
画像を拡大して表示する

1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【🔍】(Q)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【🔍】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
 - 元の表示に戻るには【MENU】を押します。
 - 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。
- 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。ただし、この機能は連写した画像や動画では使用できません。また、拡大した状態での【◀】【▶】では連写した画像、動画が表示されません。



画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【🔍】(Q)側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

- 動画や連写した画像は先頭の画像が表示されます。

